

VIEW21

特集

多様性の中で 主体性を育む

新課程
教科指導最前線

英語◎指導と評価の一体化を目指したCAN-DOリスト活用実践

指導変革の軌跡

学校改革◎埼玉県立川口北高校
協同学習◎三重県立朝明^{あさけ}高校

生きたデータの
徹底研究

2年生 夏休み明けの意識付け

2013
August

8月

高校版
Volume

3

2 私を育てたあの時代、あの出会い

心から信じてくれたから私も生徒も大きく育った
新潟県立十日町高校 定時制課程教頭◎清水 哲

4 特集

多様性の中で主体性を育む

20 新課程 教科指導最前線

英語 指導と評価の一体化を目指した CAN-DO リスト活用実践
富山県立砺波高校◎ライティングを軸に英語による発信力を段階的に評価
北海道滝川西高校◎CAN-DOリストとシラバスの一体化で、生徒が自身の英語力を客観的に把握

26 指導変革の軌跡

26 埼玉県立川口北高校
学校改革◎目指す学校像を明確にし、人間的成長を促す真の文武両道を具現化

30 三重県立朝明高校
協同学習◎協同学習により生徒の対話力と役割を果たす力を育む

34 生きたデータの徹底研究

2年生 夏休み明けの意識付け

38 未来をつくる大学の研究室

文化の比較によって得た知見により、伝統的な民族文化を現代に生かす
金沢大大学院 人間社会環境研究科 かがみはるや 鏡味治也研究室

48 Reader's VIEW

ベネッセ教育総合研究所 発足のごあいさつ

このたび、加速し複雑化する“子育て・教育環境の変化”に迅速かつ総合的に対応し、一層の社会貢献を果たす目的の下、株式会社ベネッセコーポレーションの研究機関である「ベネッセ教育研究開発センター」「ベネッセ次世代育成研究所」「ベネッセ高等教育研究所」「ベネッセ食育研究所」の研究機能を、「ベネッセ教育総合研究所」に統合する運びとなりました。

今後も、「子どもたちの未来」と子育て、教育のあるべき姿を模索し、社会に貢献できる民間の教育研究機関を目指して活動してまいります。引き続きご指導いただきますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

2013年8月吉日

ベネッセ教育総合研究所所長 谷山和成

ベネッセ教育総合研究所
<http://berd.benesse.jp>

次世代育成研究室	妊娠・出産、子育て、保育・幼児教育領域
初等中等教育研究室	小学校・中学校・高等学校領域
高等教育研究室	大学領域
グローバル教育研究室	デジタル、英語領域
情報編集室	情報誌、WEBサイト運営

*本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。
また、敬称略とさせていただきます。
*本誌記載の記事、写真の無断複写、複製および転載を禁じます

<http://berd.benesse.jp> 本誌記事は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでもご覧いただけます

今、振り返る教師としての原点

私を育てた
あの時代、あの出会い

心から信じてくれたから 私も生徒も大きく育った

新潟県立千日町高校 定時制課程 教頭 **清水哲** あゆむ

人はどれほど成長するのか、その可能性は無限だ。だが、いつ、どんな速さで成長を遂げるのかは、人それぞれである。信じる力の存在が人を大きく育てることを自らの体験を通して学んだ清水先生が、恩師からの学びとこれからの決意を語る。

「あなたが大将なのだ」



新潟県立新潟南高校に赴任して5年目、38歳になる年に、進路指導主事を務めることになりました。

私よりもっとふさわしい方がいましたから、最初はお断りしていましたが、「校長は私を信じて声を掛けてくださったのだから頑張ってみよう」と考え直し、お受けすることにしました。

最初の数か月は本当に無我夢中でした。一つひとつの行事、活動について精査し、3年間の進路指導を体系化していくことは簡単なことではありません。さらに、ベテランの先生方には

それぞれの豊かな経験を基にしたお考えがあります。進路指導の責任者として表面上は毅然とした態度で振舞いながらも、内心はともぐらついていたというのが正直なところでは

そんな私に「あなたが大将なのだから、遠慮せずに精いっぱいやりなさい」と日常的に声を掛け続けてくださったのが、その年に教頭として赴任された麩沢祐一先生です。最初のうちは自分を鼓舞しながら必死で突っ走っていた私も、何か月か経つとふと我に返り、「自分の方針と間違っているのではないか」と不安になってしまふことがありました。麩沢先生から「どうですか?」と問われ、「自信がありません」と率直に答えたこ

ともあります。そうしたやりとりの中で、「あなたが大将なのだから」と麩沢先生は何度も背中を押してくださいました。ベテランの先生方と意見が一致せず、空気が重くなった時、麩沢先生は雰囲気や和らげようとアイスキャンデーを差し入れるなどしてくださいました。進路指導主事としてやっていけそうだと自分なりの見通しが立ったのは、4年目を迎えるころでしたから、麩沢先生の存在がなければ、私は途中で音を立てていたかもしれませぬ。

生徒を信じ、同僚を信じる

今思い返すと、麩沢先生は全ての教師に対して、「きつと出来る」と信じて接してください

ていました。私たちが思わぬ失敗をしてしまった時も、自らが矢面に立って「申し訳ありません」と頭を下げる姿を見て、とても心強く感じたものです。もちろん、その姿勢は生徒に對しては一層明確でした。当時、新潟南高校の進路指導のテーマは、東京大などの難関大に合格するための指導を充実させることでした。ただ、生徒以上に教師の側に「本校でも難関大に合格できる」という自信が不足していたように思います。

そんな中、麩沢先生は「私には東大合格は無理ですが、生徒なら出来るかもしれないじゃないですか!」と冗談のように、しかし本気で言い続けていました。実際、難関大や医学科の合

先輩教師の言葉

「任せる」ことは
相手を心から信じ、
責任をとること

新潟県立新津高校 校長
麩沢祐一



赴任直後、当時の校長から「新潟南高校の今後を担う人材として、清水先生を進路指導主事に抜擢したのでフォローしてほしい」と言われました。とはいえ、一生懸命やっている清水先生にさらに「もっと頑張れ」などとは言えません。だからただ、顔を合わせる度に「どうだ?」と声を掛け続けました。

清水先生の考えに共感する人もたくさんいましたが、それでも全員がすぐに一致するわけはありません。それは、どんなベテランの先生であっても同じことです。私だって、清水先生の立場で清水先生と同じ考えを持ったかと言え、必ずしもそうではなかったでしょう。それでも、清水

左 ふざわ・ゆういち 理科。新潟県立村松高校、新潟高校などを経て、佐渡高校、新潟南高校で教頭、川西高校で校長を務める。2013年度より現職。

右 しみず・さとる 地理歴史科。新潟県立六日町高校、新潟南高校、長岡高校などを経て、2013年度より現職。

撮影◎新潟南高校にて



格者が始めると、「自分たちが育てた生徒も難関大に合格できる」ことがイメージ出来るようになり、生徒への声掛けも変わっていきました。開校以来、初めての東京大合格者を出した時は、魅沢先生との約束が果たされたようで感無量でした。

進路指導主事を務めるまでは、私は「この生徒は私が合格させた」と考えてしまうこともあったように思います。しかしいつのまにか、「生徒の心に火をつけることが出来た」と思うようになりました。合格をつかんだのはあくまで生徒の力なのです。今、私は「全ての生徒に、それぞれの可能性がある」と心から思っています。それは魅沢先生のさまざま言葉が私に根付いた結果なのでしょう。

当時の魅沢先生と同じ役割に
なつた今、それぞれの先生が目
の前の仕事に集中できるように
すること、そして生徒の可能性
を教師全員で信じる学校をつ
ることが私の役割になりました
た。生徒は教師の本心を必ず見
抜きますから、言葉だけではな
く、心の底から生徒を信じな
ければなりません。特に、若手の
先生方が生徒の可能性に驚くよ
うな経験を積めるよう、場づく

りをしていきたいと思っています。
そして、魅沢先生が私にそう
してくださったように、私も先
生方の可能性を信じて日々接し
ていきます。一生懸命やっても
失敗すること、成果が表れない
ことはあります。それでも、萎
縮せずに仕事が出来る職場をつ
くることは、一人ひとりの先生
方の生徒への接し方に良い影響
を与えると私は信じています。

先生を信用し、その結果に対しての責任を取るのが自分の仕事なのだと考えました。

清水先生の考えをベテランの先生方に伝え、そして先生方の声を清水先生に伝えることもありました。清水先生が自分の信じた通りに、存分に改革に取り組める環境は整えてあげたかったです。それが「任せる」ということではないでしょうか。

先生方は一人ひとりそれぞれ素晴らしい考えを持っています。それらを理解し、自分と異なる意見のベテランに「これでいきましょう」と言えるようになるには、時間と経験が必要です。しかし、言葉に詰まった若手に「反論できないじゃないか」などとベテランが言うような環境では人は育ちません。人を育てるのには時間が掛かるのです。

生徒の成長も同じではないでしょうか。私たちは生徒のやる気のスイッチを入れようというのと働き掛けますが、どれが生徒を変えるきっかけになるかはやってみないと分かりません。だからこそ、一つひとつの指導に手を抜かず、「必ず出来るようになる」と信じて、根気強く生徒を見守ることが大切なのです。

多様性の中で 主体性を育む

時に人は、自分とは異なる価値観・考え方に出会うことで、

新しい世界、新しい自分を知る。そして、それは、生きることや学びの大きな原動力になることがある。

生徒の主体性を引き出す価値観・考え方との出会いをどうつくり、

その時教師はどのような指導をすればよいのか。多様な価値観・考え方に触れる機会が

増えていく社会のグローバル化も踏まえて、考えていく。(『VIEW21』高校版 編集長 柏木崇)

多様な価値観・考え方に触れ、変わる高校生たち

～「高校生未来プロジェクト」参加者のワークショップ後の声より～

様々な人と触れ合い、世の中には様々な異なる考え方を持つ人がいるということが、自分の選択をもう一度見直したり、他者に対してより寛容になったりするきっかけとなった。

(神奈川県／私立／2年／女子)

自分とは違う考えを持った人と出会い、触れ合うことで、自分自身を高められるということが、身に染みて分かった。

(徳島県／公立／2年／男子)

自分と似たような考え方を持っている人は何人かいたものの、その人たちの中でもそれぞれの価値観・世界観があって、みんなそれぞれなんだなあと思った。自分の考えばかりを主張するのではなく、人の考え方にも耳を傾けて、自分の中でも気付ける・考え直せるようになった。

(愛知県／公立／2年／女子)

※ 「高校生未来プロジェクト」の詳細については、弊誌2013年6月号(P.4～19)をご覧ください

本号のテーマ

多様な価値観との出会いをどうつくり、その時
どのような指導をすれば、主体性を育めるのか？

現場の
課題意識

生徒の主体性を育む
「多様な価値観との出会い」と「教師の問い掛け」

座談会【P.6～11】



「生徒が変わるための多様な体験の機会を意図的に仕組む」
福岡県・朝倉市立十文字中学校 佐々木隆良

「多様な価値観と出会える場として課外活動などを活用」
島根県立出雲高校 桑田直子



「異なる価値観との出会いを成長につなげる働き掛けを」
立命館大 堀江未来

「『君はどう思う？』と問い掛け、自分の頭で考える機会をつくる」
(株)野村総合研究所 太田百合子



「生徒と語り合うためには、教師自身の力量の向上が不可欠」
長崎県立長崎西高校 野村雄大

大学生2名の
経験事例

高校で出会った新たな価値観が
今なお主体的な自分をつくってくれた

高校時代の転換期【P.12～15】



「今に生きている、私を変えた高校時代のディベートの経験」
岩手大人文社会科学部国際文化課程2年 三好彩夏

「視野を広げ、将来の夢を育むことにもつながった、高校時代のボランティア活動」
青山学院大法学部法学科4年 北村勇氣



課題解決への
識者の提言

異質な他者と自分自身に
「なぜ？」を問い続け、主体性を養う

対談【P.16～19】

日本教育大学院大学 客員教授
北川達夫



ベネッセ教育総合研究所
鎌田恵太郎

生徒の主体性を育む

「多様な価値観との出会い」と 「教師の問い掛け」

主体性は高校段階だけで育めるものではない。義務教育、高校、大学、そして社会と、それぞれの段階で求められる主体性を踏まえ、連続性をもって育成にあたるのが求められるだろう。中学、高校、大学、企業それぞれの立場の指導者が、主体性についての課題と育成のあり方について話し合う。

若い世代は「主体的」なのか？

大学でも企業でも主体性の育成が重要なテーマ

太田 さまざまな企業の人事担当者と話中で、最近の若手社員について共通する認識は、「指示を受けた範囲ではしっかりと取り組むが、言われた以上のことはしない傾向が顕著である」ということです。かつては長時間労働が当たり前で、会社には人生を捧げるような生き方がよしと

されてきましたが、近年、女性の社会進出や男性の家庭参加が進み、ダイバーシティ（多様性）という考え方が広まっています。つまり、社会のあり方がこれまでとは大きく変わった今、私たちは限られた時間の中で今までの成果を出さねばならず、より主体的に仕事に取り組むことが求められています。これは決して若手だけの話でなく、ベテランの社員にも同じことが言えます。

堀江 主体性は大学の学びにおいて

も重要です。1年次のうちに主体性を獲得できた学生は、学内の教育資源を活用して、確実に成長していきますが、受け身な態度のままの学生は卒業のための最低限の学びしか経験しません。大学でも、いかに学生の意識を受け身の学習者から自分で学びを構築できる主体的な学習者に切り替えられるかが、特に初年次教育において重視されています。

中高において主体的な学び方、生き方を獲得させたい

野村 与えられた課題には真面目に

取り組むが、自分で学習の内容や量を判断することが難しい高校生が増えてきているのは確かです。高校では予習中心の自立した学習習慣が必要ですが、最近の生徒にはそれが成立しにくくなっています。高校入試までに、塾などで与えられる課題をこなす学習に慣れてしまったためだと考える高校教師は少なくありません。**桑田** 本校の場合、将来は地元の公務員になりたいと考える生徒が増えています。しかし、「公務員になってどんな仕事がしたいのか」「地元の30年後をどのように展望し、どんな貢献をしたいと考えているのか」



(株)野村総合研究所
人材開発センター
主任システムコンサルタント
太田百合子
おおた ゆりこ



立命館大
国際部副部長
国際教育推進機構准教授
堀江未来
ほりえ みき



福岡県・
朝倉市立十文字中学校
校長
佐々木隆良
ささき たかよし



長崎県立長崎西高校
教務主任
野村雄大
のむら たけひろ



島根県立出雲高校
英語科
桑田直子
くわた なおこ

と尋ねても、多くの生徒はきちんと自分の言葉で答えられません。地方を取り巻く厳しい状況を十分に理解した上で、主体的に自分の生き方を考える力が生徒にはもっと必要だと感じています。

佐々木 中学校は高校以上に多様な層の生徒がいますが、全体的に指示待ちの傾向が強いのは同じだと思います。学力が非常に高い生徒でも、確固たる将来の目標が持てておらず、志望校決定を保護者や教師に頼ってしまっているところがあります。私は、主体性とは、将来の夢に

主体性を多様な価値観の中で育てる

多様性に触れる中でお互いを認め合う経験

太田 若者たちが主体性を発揮できない理由は、彼らがずっと正解至上主義の中で生きてきたからではないでしょうか。自ら動くことによって不正解を選び失敗するくらいなら、受け身と言われようとも、指示を待った方が安心だからです。でも、実際に社会に出ると、正解が1つではない問題、そもそも正解が存在しない問題の方が多いいのです。それ

向かって今自分にはどんな体験が必要なのかを考え、生き方を自分で築いていく力だと考えています。生徒たちが、将来の夢を今の自分とつなげられるよう、中学校段階からさまざまな形で生徒に働き掛けていくことが必要でしょう。

なのに正解至上主義のままでは、社会人として主体的に動き出すことは出来ません。

堀江 授業で「思ったことを自由に発言してください」と促しても、生徒たちにとっては一步を踏み出すことがとても難しいようです。「答えは1つではありませんよ」と説明しても、それでも模範的な答えを探している気がします。学生たちはそれまでの学校での経験から、教室という場で間違えたり、他の人と違う考えを言ったりすることを恐れ、みんなと同じであることを望んでいるよ

うです。そんな学生たちを変えるには、実際に多様性に触れる中で、人は多様であってよいのだと認め合っていく経験が必要だと思います。試行錯誤を繰り返して、間違いだと思っていたことが正解だと気が付いたり、正解が分からない状況の中で自分の仮説を試したりするような経験を積んでもらいたいと思います。

佐々木 ただ、学校という場で子どもたちに失敗を経験させるのは、決して簡単なことではありません。多様な子どもたちが集まる中学校では、生徒が失敗して、自信を失ってしまわないように、教職員は配慮を重ねています。まずは「やれば出来る」という自己肯定感を大切に育てながら、小さな失敗をどうプログラムしていくかが重要だと思います。

進路観の衝突や探求的な活動の中で失敗を経験させたい

野村 いわゆる進学校では、特に生徒に大きな失敗をさせたくないという思いが教師の中で強いと思いま

す。人生における失敗経験の重要性は十分に理解していますが、それでも正直なところ、ジレンマはあります。日々の授業でも、多様性よりも効率的に正解を求めていく場面がどうしても多くなります。ただ、そうした進学校としての現実があるからこそ、私は進路選択の場面で多様な価値観との出会いを生徒に経験させたいと思います。第一志望にどこまでこだわること、保護者や担任と語り合い、大人の価値観とも向き合った上で自分の生き方を自分で決めてほしいと生徒には話しています。

太田 1人の母親として、出来ることなら子どもに大きな失敗はさせたくないと思います。ただ、大学入試などでの大きな失敗経験ではなくとも、日々の高校生活で人とかかわりながら、小さな失敗で悩み、もがき、決断する経験を積み重ねること、価値観が育ち、多様性を受け入れられるようになると思います。

桑田 効率的に正解を求める場面が多い進学校で、進路実現という使命を全うする中で出来るチャレンジの場は学校行事や課外活動であり、本校の場合、その1つがSSHだと



思っています。SSHでは、グループ内で多様な価値観をぶつけ合いながら、正解がない研究テーマに取り組みことが可能だからです。「こうすればうまくいく」と教師が正解を教えるのではなく、ぎりぎりまで自分たちの力だけで高い目標に取り組むことで、生徒は小さな失敗体験を重ねながら本物の成功体験をつかむことが出来ていると思います。同時にSSHは、効率的に正解にたどり着く教科学力を身に付けながら、それを正解のない問題に活用していく力を身に付けるきっかけになると期待しています。

子どもの発達に応じて学びに転換できる失敗体験を提供する

佐々木 私は本校の教員に、「生徒

「多様な価値観と出会える場として 課外活動などを活用」

島根県立出雲高校 桑田直子

を安易に褒めてはいけない」とよく話しています。小さな子どもならばそれもよいでしょうが、中学生になってレベルの低いことで褒められ続けているのは、生徒はいつしか努力をしなくなるでしょう。だから、「失敗を重ねた上での本物の成功体験」という桑田先生のお考えはとても重要だと思います。本校では、2泊3日で20時間以上の自学自習に取り組んで学習習慣を身に付ける学習合宿

多様な価値観との出会いをいかにつくるのか

多様性との出会いの意味を生徒が整理できるような教師が問い掛ける

桑田 多様な価値観との出会いの1

や、36キロ以上の山道を8時間かけて歩く英彦山遠行会など、生徒が達成感を味わう行事を開催しています。普段の生徒会活動などでも、「前年度の踏襲ではなく、新しいことにチャレンジしよう」と、教師が生徒に声を掛けて、取り組みのハードルを上げることで、生徒たちに試行錯誤させています。

太田 きつとそうした機会は、中学校から高校、大学と、それぞれの段階で継続していくことが大切なのだろうと思います。

堀江 子どもが失敗を受け止め、それを学びに変えられるかどうかは年齢にもよるでしょう。その意味では、大学生はたくさん失敗していいし、それを学びに変えられる年代なのだと思います。

つとして、「一流との出会い」も高校生には有意義だと考えます。研究者や実業家、政治家など、SSHの活動の中で、さまざまな分野の最先端を走る方々との出会いを生徒に提



供しています。とはいえ、一流のものに触れて「すごかった!」と感動するだけでは主体性の向上にはつながりません。明日の自分につながるような振り返りが出来るように、教師が「では今、君は何をすればよいと思うのか」と問い掛けることが必

要だと思いません。

野村 本校もSSHの活動を行っています。高度な研究に取り組むだけでなく、その意味を生徒が自身身に問い掛けていくことも大切だと思います。本校の生物部の生徒が、アメリカで開催されたパネルディスカッションに参加したのですが、自分の研究について「将来、社会でこんなふうになかしたい」と自信をもって語るアメリカの高校生の姿は、生徒たちにとっても新鮮で、学びの意味を考えるきっかけになったようです。そうした、同じような年代だけでも、自分とは違う考えを持つ人との出会いが、生徒を成長させていくのではないのでしょうか。

桑田 日本の生徒に比べて欧米の若者は、社会にどうかかわりながら生きていくか、強く意識しているように思います。共同研究や一流との出会いなど、多様な体験の場を与えながら、生徒に都度、自分が今何を大事にしているかを語らせたり、書かせたりすることが、学びのモチベーションにつながる気がします。



多様な体験の場を 意図的に、数多く つくっていく

野村 もっと主体性を身に付けてほしいと生徒に対して思うのは事実ですが、学校行事などの運営を任せるとこちらの想像以上に頑張ってくれることも実はよくあります。ただ時々、教師からすると突拍子もないことに挑戦しようとすることもあり、そんな時は「体験を通した学びのために、これくらいは認めてあげたい」と思いながら、生徒指導の観点でストップさせることもありあります。一つひとつの判断は簡単ではありませんが、多様な体験の中で生徒の発想、視野を広げるため、私たち

「生徒が変わるための 多様な体験の機会を 意図的に仕組む」

福岡県・朝倉市立十文字中学校 佐々木隆良

教師、そして保護者も、ある程度の失敗を見通した上で、生徒を見守る覚悟が必要だという気がします。

佐々木 多様な体験の場が必要なのは、裏を返せば、それぞれの生徒が何をきっかけに変わるかが分からないからです。だから、私たちは生徒が変わるチャンスになると期待できるものは、可能な限り取り入れて実施しています。本校では、キャリア教育を中核に据えた啓発的体験活動を多彩に実施しています。班別での大学訪問や卒業生との対話を盛り込んだ東京への修学旅行、弁護士やスポーツ選手などのプロフェッショナルを学校に招き、学びの意味を語ってもらう「文中未来塾」などがその一例です。多様な価値観との出会い



「異なる価値観との 出会いを成長に つなげる働き掛けを」

立命館大 堀江未来

から志を抱くことが出来れば、学習への取り組みは必ず意欲的になります。そして、そうした多様な取り組みを先生方に負荷を掛けることなく

語り合うことで多様性の中の自分が見える

多様な価値観との出会いを 成長につなげる ガイドラインの確立を

堀江 高校生や大学生にとっては、多様性への接点として、海外留学プログラムや留学生と共に学ぶ異文化体験はとても有効だと思います。日本では当たり前前の価値観が海外では通用しないこと、反対に、日本では認めてもらえなかった価値観を海外で評価してもらえらることもありま

実施するためには、私たち管理職のマネジメント力が問われるのだと思います。

す。そうした中で、自分に自信が持てたり、逆に自分の不足を直視する余裕が生まれたりすることもあろうでしょう。多様な価値観との衝突で自分の余計なものがそぎ落とされ、自分の根幹が見えてくるのです。ただ、異文化を体験すればそれだけでよいということではなく、異なる価値観や行動様式に出会った時の自分の反応を振り返り、なぜ異なる価値体系が構築されたのか客観的に考察できるように、経験を成長に変えるための

働き掛けをガイドラインとして確立させ、教職員がサポートすることが必要です。

太田 弊社では、主体性の向上を目的として、社外講師を招いて社員に気付きを得させたり、社員同士が経営課題について主体的に議論したりする場を3年前から提供しています。ただ話を聞くだけでなく、自分はどうしたいかを考え、語り合うプロセスは社会人にとっても大切です。実際に話をする事で自分と他者との違いが実感できるわけですし、本当の課題と解決方法は人と話しながら導き出すものだからです。そして語り合う中で、自分の考えを論理的に伝える力の重要性も実感できます。社会人になって、私たちは「伝えた」と「伝わった」は全く別ものだと痛感しますが、論理的に伝



え、論理的に受け止める力は、多様性を受け入れる力に通じます。

教師自身に 多様な価値観との 出会いが必要

桑田 受け身と言われる生徒が、社会に出た時に、新しい価値を生み出せる人材に育つために、私たちはひたすら生徒に問い掛け続けるべきなのでしょうね。当たり前を疑う視点がどのようなかを生徒に示しながら、社会をつくり、変えていくという意識を私たち自身がしっかりと持たなければいけないと思います。
太田 私もそう思います。若い世代に多様な価値観との出会いを求めるのであれば、私たちがまず多様な価値観と触れ合うことが必要ですよね。先生方には、子どもたち以上に

「生徒と語り合うためには 教師自身の 力量の向上が不可欠」

長崎県立長崎西高校 野村雄大

外の世界の多様性を知っていたら、**掘江** 先生が社会の変化を敏感にキャッチしてこそ、子どもたちへの言葉は心に響くものになるのではないのでしょうか。

桑田 私たち教師の働き掛けを通して、生徒が「今、自分が当たり前だと思っている考え方、生き方とは全く違うものが、この社会にはたくさん存在しているんだ」「思ってもみなかったようなことが、自分の生きる社会で行われているんだ」と気が付けば、生徒たちは今のままの自分では駄目だと、きつと自ら動き出すとするのでしょね。

野村 学校行事などは、多くの学校が同じような活動をしています。そこでの教師の働き掛けによって、生徒の成長が大きく変わること。私たちはよく知っています。学校行事の前後の面談で生徒の気付きを促す技術など、生徒と語り合うための教師自身の力量の向上は、多様な価値観との出会いを生徒の成長につなげるためには不可欠だと私も思います。そして、高校教師として私がこ

れからも大切にしたいと強く思っているのは、やはり基礎学力です。

堀江 私も、正解が存在する世界においては、正解を素早く見つける基礎学力は大切だと思います。最近では、英語はそれなりに話せるけれど、正確に読んだり書いたりすることが苦手な生徒が目立ちます。もしかすると、こつこつと文法や語彙を学ぶ過程をおろそかにしてきたのかもしれない。しかし基礎学力は、学生が主体性を発揮して学ぶ際の土台として確実に必要です。

佐々木 中学、高校段階で基礎学力を身に付けておかないと、多様な価値観と向き合った時にその価値を理解できませんからね。そして、さまざまな考え方が存在する世の中に子



どもたちを送り出すからこそ、学校

には揺るぎない道徳心を子どもの中に養わせる責任があると思います。勉強だけ出来ればよいというわけではないこと、夢や目標、他者への貢献意識を持つて、よりよく生きていこうという向上心、そしてやれば出来るという自己肯定感を大事にしながら、子どもたちを高校へと送り出し、さらに大学、社会と連携して、みんなで大きく育てていきたいと思えます。

子どもたちが自分の頭で考える問い掛けを

太田 教わることに慣れた若者たちに、いきなり主体性を求めることは

「『君はどう思う?』と問い掛け、自分の頭で考える機会をつくる」

(株)野村総合研究所 太田百合子

実は大変酷なことであることは分かっていますが、それでも現実には、社会に出たらすぐにチームの一員としてさまざまな価値観を自分の価値観と統合しながら働くことが求められます。先生方には、「何が正解だと思うか?」という問い掛けだけではなく、「君はどう思うか?」と問い掛け、子どもたちが自分の頭で考える機会を、これからも学校生活の中にたくさん取り入れていただきたいと思えます。そして、私たち大人は若い世代に対して、「あえて答えを教えないことで育てていく」ということをもつと強く意識していくことが必要なのだと思います。

堀江 今、子どもたちが育っている社会と、大人たちが育ってきた社会とでは、求められる人材要件は大きく違います。たとえ海外に出ずに国内で働くとしても、個人で切り開く力が求められる時代です。そうした社会の現実には私たち大人もしっかりと目を向け、社会に対する認識を常に最新のものにして、子どもたちに語ることが大切だと思います。

高校時代の 転換期

高校で出会った新たな価値観が 今なお主体的な自分をつくってくれた

自分の考えで道を選び、自分の将来に、そして社会に役立つ活動をしている大学生に、
転機となった高校時代の体験を聞いた。

今に生きている、私を変えた 高校時代のディベートの経験

岩手大人文社会科学部国際文化課程2年

(岩手県立盛岡第三高校卒業)

三好彩夏さん

予期せぬ反論を受けて 何も言えなくなった

私は中学生の頃から小説家になるのが夢でした。中学時代の私は内向的で、休み時間に教室の隅で1人、文章を書いているような生徒でした。人前で何かを主張することも苦手で、親しい人たちの中においても、人数が多くなり「集団」になると、それだけで緊張して何も言えなくな

ることがよくありました。

そんな私を大きく変えたのが、高校2年生の2学期に始まったディベートでした。私が卒業した岩手県立盛岡第三高校には、「総合的な学習の時間」で行う「Dプラン」(*)という活動があり、考える力を養うためのさまざまな取り組みがありました。その中の2年生で行う取り組みの柱がディベートでした。クラスメート4人とチームを組み、リーグ

戦形式で自分のクラスや他クラスのチームと対戦し、勝ち残ったチームが大ホールでの決勝大会に進みます。私が参加した時のテーマは「尊敬

死を法制化すべきか否か」。私の役割は相手の意見に反論する「反駁」でした。1か月の準備期間、インターネットや書籍で障がいのある方や介護に携わっている方などの声を集めたり、関係する法律を調べたりした上で、チームでじっくり話し合っ

た。万全の態勢で臨んだつもりでしたが、実際のディベートは予想外の連続でした。否定側だったため、賛成側の意見は何も調べていませんでした。こちらが思ってもみなかった意見を相手チームから返されて、反論

できないことが何度もありました。

また、ある日のディベートでは、多くのチームが「自己決定権」という言葉を多用して論を展開しました。ところが、終了後、先生から「未成年は、親の同意なくして自己決定権は使えない」と指摘され、何も言えなくなりました。指摘されたこともありました。どのチームも事件や事例は調べていましたが、権利がどこまで適用されるのかは調べきれいでなかったのです。自分たちの未熟さ、ふがいなさに誰の声が生まれませんでした。

自分の意見は自分のもの 人と違っても構わない

私たちのチームは決勝前で敗退、ディベートは4、5回したただで終

*「Dプラン」の詳細は、『VIEW21』高校版2012年10月号「指導変革の軌跡」(P.22~25)を参照



母校の岩手県立盛岡第三高校にて。ディベートを行った思い出深い教室。

わかりました。しかし、その数回のディベートは、私に今まで知らなかった多くのことを教えてくれました。正しいと思いき主張したことが真つ向から反対される、矛盾を突かれて何も言えなくなるという経験は初めてでした。私は自分の論が正しいと思つて主張しているのに、別の側面から見ると全く違う見方も出来る。

自分の意見は絶対ではなく、世の中にはさまざまな考え方があつた。いろいろな意見に耳を傾ける中で、価値観が広がつていくのを感じました。

普段、たわいのない話をしていゝクラスの友だちが、私が調べていゝかしたことを知つていゝ、私が思つたこともない考えを持つていゝことにも驚かされました。逆に、私が主張したことに対して、「そういう考え方もあるんだね」と感心されることもありました。互いの考えを認め合ふことで、共に成長していゝことの大切さも知りました。今考えると当たり前のことばかりですが、当時はそんなことは考えたこともなかつたので、全てが新鮮な驚きでした。

ディベートからもう1つ学んだのは、自ら取り組めば、それだけ得るものも大きいということです。ディベートでは、反駁するために相手の主張を一生懸命に聞かなければなりません。私自身も相手の話を聞きますし、同じように対戦相手や聴衆も私の意見に耳を傾けてくれます。話を聞くこととするクラスメートの真摯

な姿勢が私を勇気づけてくれ、回数を重ねるごとに、主張すること、自分を出すことの面白さややりがいを感じることが多くなりました。人の話をただなんとなく聞いていゝだけではなく、自分の意志や考えを持つて、それを声に出したり行動に移したりするのは素晴らしいということに初めて気付いたのでした。

高校時代に培つた主体性で自分の世界を広げていく

私は、岩手大の人文社会科学部でフランスの言語や文化について学んでいます。

大学に入つてからは、視野を広げるためにいろいろなことに挑戦しています。1年生の後期にあつた初年次ゼミは、希望すれば他学部のゼミを受講できる選択科目です。修得できるのは1単位なのであまり人気はありませんが、私は山林や入会地いりあいちについて学ぶ農学部のゼミに参加しました。2年生になると専門分野の授業が始まり、理系の授業を受けられる機会は少なくなるため、視野を広

げるために、あえて自分の専門から遠い理系のゼミを選んだのです。学習内容もさることながら、理系学部の学生と一緒に学ぶことによつて自分にはない発想に触れることも多く、自分の世界を広げる上でも良い経験になりました。

国際文化課程は留学生が多く、多様な価値観に接することが出来ます。留学生はさまざまな価値観や考え方を持つており、その中には共感できないものも少なくありません。だからといって、全てを拒絶していゝては何も生まれません。異なる価値観を受け入れることで視野は広がつていくものであり、社会の共生も実現するのではないのでしょうか。

小説家という夢は今も変わっていません。しかし、そのためのアプローチは、中学・高校時代とは全く違ひます。岩手県には、出光イーハトーブトライアル大会という全国的に有名なトライアル用モーターサイクルの競技会があります。このイベントを小説の題材にしたいと思ひ、大会の主催者の方にお願ひして、定期的に

取材させていただいています。内向的だった自分が、このように主体的に行動できるようになったのは、高校時代のデイベートの経験が今に生きているからだと思います。

受験勉強で忙しかった高校時代と違い、大学生の今はたくさん時間があります。だからといって楽ばかり

していると、あつという間に時間は経ってしまい、何も得るところがないまま4年間で過ぎてしまうでしょう。せつかくたくさんの時間があるのだから、今しか出来ないことをしたい。そうすることで、大学生活はより充実し、将来の可能性も広がっていくのだと信じています。

視野を広げ、将来の夢を育むことにもつながった、高校時代のボランティア活動

青山学院大法学部法学科4年

(神奈川県・私立サレジオ学院中学・高校卒業)

北村勇氣さん

ボランティア活動での出会いが自分の世界を広げた

私立の中高一貫校に入学して、初めて自分の成績を見た時のことは今でも忘れられません。180人中176位。それが私に突き付けられた現実でした。

中学校に入学したばかりで、中学受験と中学校での勉強の違いが分かっていなかったのも原因だったと

思います。しかし、小学校時代の成績は常にトップクラスで、それを自分のアイデンティティーにしていた私にとって、勉強で人に負けるのは初めての経験でした。勉強で勝てないとしたら自分は何をすればよいのだろう。これが北村勇氣だと言えるようなものをもう一度つくりたい。そういう思いで必死に取り組んだのが部活動のバドミントンでした。

週7日の活動も珍しくない厳しい

練習の中で、顧問の先生からは競技の技術はもちろん、礼儀や挨拶も徹底的に鍛えられました。必死で練習に打ち込んだおかげで、1年足らずで上級生に勝てるようになり、2年生以降は副部長を務め、選手としても部のエースとして活躍できるようになりました。小学校時代は勉強ばかりでスポーツは苦手でしたが、努力すればスポーツでも自分は通用することが分かり、大きな自信になりました。

それでも、その頃の生活は勉強と部活動だけ。仲の良い十数人の友だちとの付き合いが私の世界の全てでした。その生活を変えるきっかけになったのが、高校2年生の時に参加した校外のボランティア活動です。関東一帯の高校生によって組織されたボランティア団体が、多摩川の河川敷で清掃活動を行っていました。クラスメートに誘われるまま、その活動に参加したのです。

当日は驚きの連続でした。共学、男子校・女子校、国公私立など、あらゆる種類の高校の生徒が集まり、学校や地域の垣根を超えて交流している。団体の代表者が新聞社のイン

タビューを受け、大人と対等に話をしている。自分と同じ高校生が、自分たちの意志で行動し、外の世界とつながっている。その姿は、部活動と勉強しか知らなかった私には大きな衝撃でした。

世の中にはこんな世界があるんだ、世界はこんなに広いんだという思いが、ふつふつと湧いてきました。同時に、自分もこういう世界に飛び込んでみたいと強く思うようになったのです。

多様な友人との交流で夢を持つ大切さを知る

もう1つ、その時に私が初めて知ったことがありました。人のために行動する素晴らしさです。

勉強にせよ部活動にせよ、今までしてきたことは全部、自分のためでした。親や先生に認められたい、みんなから「すごいね」と言われたい。その一心で学校生活に打ち込んできました。しかし、多摩川の河川敷でゴミを1つずつ拾ううちに、自分も人のために出来ることがあると思えるようになったのです。ゴミ拾いは私にとって生まれて初めての、世



北村さんが経営に参画している渋谷の会員制レンタルスペース「サクラボ」にて。

界に対するアプローチでした。

その後、メンバーに誘われるまま団体に所属し、外部との交渉を行う外務担当の幹部に抜擢^{ぼつこ}されて、1年間活動を続けました。

私の学校では、高校1年生の春から大学入試に向けた準備が始まります。親はボランティア団体の活動をするので勉強がおろそかになりは

しないかと心配しましたが、担任の

先生は勉強や部活動と両立できるならやってみると言って励ましてくれました。外の世界に触れる経験は学校内の活動にもありましたが、先生方は学校内外で多様な価値観や考え方に出来る限り触れさせたいと思っていたようです。クラスメートの中にも、声を掛けていくうちに応援してくれる人が増えていきました。

団体には専門学校生も多く、将来の夢や志を明確に持っていることも、大学進学しか考えていなかった私には新鮮でした。その頃の自分には夢がありませんでしたが、自分は大学に入って夢を探そうと決めました。漫然と大学生活を過ごすのではなく、将来の夢を見つけるために大学に進む決意を新たにしました。

新規事業やイベント企画の立ち上げなど次々とチャレンジ

大学受験では、環境面で世界に貢献するという観点で志望進路を検討し、環境法を学ぶために法学部を選びました。

大学に入ってから、いろいろなサークルに所属して活動をしたものの、高校時代に打ち込んだボランティア活動のような手応えを感じることはありませんでした。唯一、茶道部には所属し続けましたが、それだけでは満足できず、自分の個性を発揮する場所が欲しいと考えるようになりました。

1年生の終わり頃から、私は再び学外の団体に所属するようになりました。アフリカの子どもに食糧支援を行うNPO団体「TABLE FOR TWO」の青学支部が潰れかけていたのを友だちと一緒に立て直しました。働く目的を社会人と学生が一緒に考える「ハタモク」という団体の立ち上げと運営にも携わりました。目標や居場所を失いかけていた私にとって、大学2年生の活動が第2の転機になりました。

茶道部の影響もあり、この頃から日本文化を世界に伝えていくことが、生涯をかけて打ち込める仕事になるかもしれないと考えるようになりました。3年生の夏休みには、海

外にも販路を持つ京都のお米屋さんに頼み込んで、住み込みで1か月間、インターンをさせていただきました。現在は、外国人が通う日本語学校で日本文化講座の講師として日本文化を伝える仕事をしたり、0から6歳の伝統ブランド「aeru」を展開する株式会社和^わえるなど、いくつかの会社で働いたりしています。他にも、学生向けの事業やイベントの設計などを通して多くの仲間を得ることが出来ました。

自分からつかみに行かなければ何も得ることは出来ません。現状を変えたいと出来ません。高校時代のボランティア活動から学んだ教訓が、大学生生活を充実させ、将来の夢を育むことにもつながったのだと思います。

卒業後は就職して自分を磨き、ゆくゆくは日本文化を発信する仕事に就きたいと考えています。自分で起業するか、別の会社で働くかは分かりません。その時が来るまでに実社会で経験を積んで力を蓄え、いつか夢を実現させたいと思っています。

異質な他者と自分自身に

「なぜ？」を問い続け、主体性を養う

多様な価値観・考え方と接する中で、どのように主体性は養われていくのか。異質な他者と生徒が出会った時、教師にはどのような働き掛けが求められるのか。元外交官であり、フィンランド教育研究家の北川達夫氏に、ベネッセ教育総合研究所の鎌田恵太郎が聞いた。

主体的であるためには 他者の存在は不可欠

鎌田 『VIEW21』高校版では、主体性の育成を年間のテーマとした特集を毎月展開していますが、今号では、多様な価値観・考え方との出会いを通じて、いかにして主体性を育んでいくのかを考えています。

北川 そもそも主体的であるということは、自分とは違う異質な他者の存在を前提として、自分はどう考え、行動するのかを決めていく態度のことです。異質な他者の存在を意識せず、「みんな同じ考えのはず」という前提での言動は主体的ではなく、主観的に過ぎません。つまり、

主体的であるためには、他者意識が必要であり、グローバル化した多様な社会の中では、ますます主体性が求められることになります。

ただ、ここで問題なのは、「多様性」が肯定的な意味合いを持つのに対し、「異質」は否定的なニュアンスを持つことです。異質であるということは、根本的に違う、混じり合いにくいということですから、異質なものに触れた時、人は基本的には不安を感じ、拒絶したくなるものです。しかし、その不安を乗り越えた時に、新しい価値を発見できることがあります。異質なものは、自分と根本的に違うから価値があるというわけです。グローバル教育は、ひと

言で言えば、主体的な態度を持ちながら、異質なものとどう付き合っていくかを学ぶものです。

異質な他者との間に 論理的な共感を構築する

北川 グローバル社会で本当に異質な価値観の人と向き合うことになる、「相手を知れば知るほど、異質すぎて全く共感できない」といったシーンに直面することが現実にはあります。だからといって、「この相手とはもうかかわらない」と関係を放棄しては、真にグローバルな、開かれた状態とは言えません。「感情的な共感」は成立しない相手であることを承知した上で、その異質性に

対して「なぜ？」と問い掛け続け、「論理的に構成された共感」を目指すことが求められるのです。P.13で岩手大生の三好さんが語った留学生との接し方は、まさに「感情的な共感」ではなく、「論理的に構成された共感」によって異なる価値観を受け入れているのだと思います。

自分は「善」と思うことを「悪」と考える相手に対して、「話を通じない」と拒絶するのではなく、なぜその人は悪だと考えるのかを徹底的に考え、「論理的に構成された共感」の成立を模索することが、多様性のある社会では必要なのです。そのため、教育の現場でも、受け入れがたい異質性に向き合い、「なぜ？」と



ベネッセ教育総合研究所
高等教育研究室室長
鎌田 恵太郎
かまた けいたろう

北川 達夫 きたがわ たつお
日本教育大学院大学客員教授
外務省経済局・欧亜局（現・欧州局）勤務、在フィンランド日本国大使館・在エストニア日本国大使館兼勤のち退官。英語、中国語、フランス語、フィンランド語、スウェーデン語、エストニア語の通訳・翻訳家。OECD・PIISA読解力調査専門委員などを経て現職。著書に「不都合な相手と話す技術」（東洋経済新報社）など。



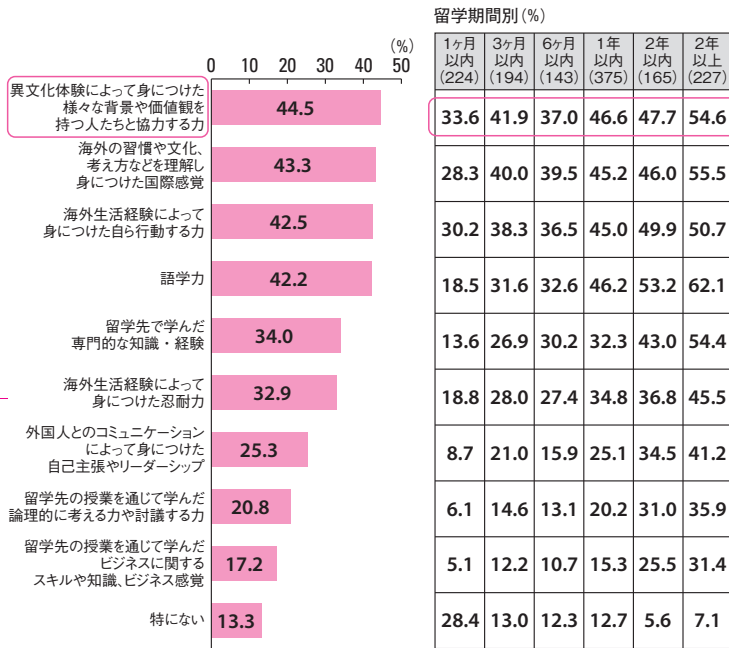
論理的に問い続けるトレーニングが必要になってきているのです。

同質性を前提にした上での異質性の発揮が求められる

鎌田 確かに、外国人などの文化的な差異の大きい相手とのコミュニケーション

ケーションでは、論理に基づいた意見しか理解できないでしょう。
北川 異質な他者とコミュニケーションを取る時ほど、論理的でないと思わない一方で、同質性のある集団の中では論理的すぎるとかえって説得力が下がることがあります。余計なことをいちいち言葉にすることで、理屈っぽさ、あるいは許容性のなさが反発を生むのです。
企業の人事担当の多くが「ほしい人材は自己主張できる人」と言います。この言葉を額面通りに受け取ると、今、日本の企業が異質なもの同士のぶつかり合いの場になっているように思えてしまいますが、必ずしもそんなことはありません。企業がほしいのは、主張すべき時に主張でき、主張すべきではない時には空気を読んで黙っていられる人材です。
鎌田 それぞれの社会、集団の同質性の中で、個人としての異質性を発揮するべき時にそれが出来る人間が求められているということですね。
北川 そうです。そしてそれは決して日本社会だけの話ではありません

Q. 留学を経験していない周囲の人と比べ、あなたが「身につけている」、「どちらかといえば身につけている」と回答したものに、現在のあなたの仕事に活かすことができていると思うものは何ですか。



注1) 複数回答。
注2) 対象は、「周囲の人と比べて身につけていると思うこと」で、いずれかに「身につけている」、「どちらかといえば身につけている」と回答した1,328人。

出典 / 「留学に関するアンケート調査」[留学生・海外体験者の国外における能力開発を中心とした労働・経済政策に関する調査研究] (2009年、経済産業省受託研究)

異なる価値観を受け入れる力は、短期留学では身につけにくい。短期であるほど、自分や周囲に「なぜ？」を問い続ける姿勢が重要だろう。

ん。例えば、国連総会であつても、その同質性の中で、空気を読むべき瞬間、持論を言つてはいけな場面は確実にあるのですから。
異文化理解とは「自他の文化」の理解
鎌田 異質な価値観との出会いとしてまず思い浮かぶのが留学です。

北川 留学は否が応でも異質なものに触れるよい機会です。しかし、留学するだけで異質性を受け入れる受容力が身に付き、グローバルな人材になれるとは限りません。留学しても、その国で生きていくための言語や習慣を身に付けただけ、その国の同質性に埋没する術を覚えただけという人も少なくないでしょう。

留学は、あくまで日本人としてここに行き、そこでの学びを日本に持ち帰るものです。この時重要なのが、「自他の文化」を知ることです。つまり、「私（たち）」はなぜそうするのか、「彼（ら）」はなぜそうするのかを問うことです。

例えば、アメリカに留学したのなら、カルチャーショックに驚くだけでなく、アメリカ人はなぜそうするのか、そしてアメリカ人のジョンという個人はなぜそうするのか、この問い掛けを続けることが大切なのです。同様に、なぜ日本人はそう考えるのか、そして日本人の私はなぜこう考えるのかを問います。それが出来た時初めて、主体的な存在として異質なものに向き合えます。

鎌田 そのように、異文化の中で「自他の文化」を問い続けるためには、一定のトレーニングが必要だと思います。自分と相手を比較して、「なぜ？」と考える訓練は、学校の日常の中でも可能ではないでしょうか。**北川** 海外ほどではないにしても、学校でも異質なものに触れる機会をつくり、自分と相手を比較して「なぜ？」と考える訓練をすることは、

工夫次第で十分できるでしょう。その意味では、日本にいるからグローバル教育は出来ないということではなく、決まらなと思っています。

教室の中の異質性に対する想像力とは

鎌田 学校現場で、異質性と向き合う教育、「なぜ？」と問い続けるトレーニングはどのように行っていくとよいのでしょうか。

北川 例えばフィンランドは、教室をのぞいてみると分かりますが、決して子どもたちの人種や国籍は多様ではありません。日本同様に教室の

このイラストは何に見えますか？



その猫は安楽死させるべきか？

～異なる価値観における協同的な問題解決～

北川 スウェーデンに住んでいた日本人Aが、日本に帰国することになりました。Aは、スウェーデンで飼っていた猫を日本に連れて帰ろうとしましたが、スウェーデン人の友人たちは「何時間も狭いオリに閉じ込め、更に、長期間検疫に留め置かれるのは動物虐待だ」とAを非難しました。「では、スウェーデンに残すべきか」とAが聞くと、友人たちは「今さら飼い主が変わるのはかわいそうだ」と言う。ではどうすればいいのかとAが再度聞くと、友人たちから返ってきたのは「余計な苦痛を与えるのならば、飼い主が責任をもって安楽死させるべきだ」という答え。動物に無用な苦痛を与えてはいけないう信念は理解できても、家族同様に猫を愛してきたAに安楽死は到底受け入れることは出来ません。頭では理解できるけれど、受け入れられない……これがまさに異なる価値観です。

実はこの話には、驚くべきオチがあります。彼らはさんざん議論を尽くしますが、意見が一致することなく、結局、Aは予定通り猫を日本に連れて帰ることを決意します。すると友人たちは「飼い主が決断したことなら……」とその決断を受け入れ、Aのために航空会社と交渉して、猫をペット用貨物のオリに閉じ込めず、客室内に持ち込めるようにしてくれたのです。更に当局にも掛け合い、検疫の負担を大幅に軽くすることも成功しました。最後まで「安楽死させるべきだ」と言い続けながら……。

スウェーデン人たちは、自分の主張が通らないのであれば、「無用な苦痛を与えない」という信念を、相手の主張の中に組み入れることを重視したのです。つまり、論理的な共感によって、異なる信念、価値観を統合し、問題解決を実現しようとしたわけですね。



中には同質性が存在するのですが、そこで異質性に対する想像力を育もうとしてるのが特徴的です。上のイラストを見てください。この絵は何に見えるでしょうか。きっと多くの日本人は「牛乳パック」と答えるでしょう。それは、「同じようなものが日本で売られている」という経験や、「牛の絵があるから、牛に関係するものだ」という知識などが裏付けとなった答えです。

では、これを見て牛乳パックと答えない人がいるとしたら、それはどういう人かを想像してみてください。「牛がない国なら牛乳は飲まないから、牛乳パックと答ええない」とか、「大きな缶を市場に持って行って牛乳を買うのが当たり前で、牛乳パックと答ええない」など、いろいろと想像できるはずですね。そのようにして、なぜ自分たちは牛乳パックだと思うのか、牛乳パックだ



と分らない人がいるとすればそれはどういう人たちだろうかと考えることが、異質性に対する想像力につながります。私たちのものの見方が唯一絶対ではないとしたら、他にどんな見方があるのか、それを想像できることが、異質なものを受け止める構えをつくっていくのです。

フィンランドでは、小学生であっても異なる意見に対して「それは違

う」という態度をとるとたしなめられます。「違う」と思うのは、自分が理解できないからなので、「違う」と拒絶するのではなく、「なぜそう思うのかを教えてください」とお願いすべきだと論じられるのです。

鎌田 「なぜなのか教えてほしい」という態度は、学びの態度そのものです。異質なものに向き合った時に、「なぜ？」を問い続けることが、主体的な学びに通じるのですね。

「なぜ？」と問いを立てる スキルを身に付けさせる

鎌田 日本の学校では、グループ間で意見を戦わせたり、グループ内で意見を1つにまとめたりする活動がよく行われています。しかし、以前私がフィンランドの学校を訪れて驚いたのは、グループで話し合っても、最後は自分の考えを言わせていたことです。みんなで決めたことは団結して遂行しようという日本の文化は素晴らしいと思いますし、今後大切にしてほしいものです。その上で学びの場では、グループの活動

を土台に、自分の考えをもう一步深めることも重要だと感じました。

北川 確かに、学びの場では、みんなの意見を踏まえて、自分の考えを更に深めることで、「みんなで話し合った」ことの意味が更に大きくなるのはおっしゃる通りです。

みんなで考えたことを踏まえて、自分の考えを更に練り上げられたなら、自分ひとりではたどり着くことが出来なかつた高みに登ることが出来ます。ものづくりの現場でも、チームで力を合わせて1つの製品をつくりあげるのですが、みんなでやったという満足感だけでは、チームのメンバーそれぞれに次の製品を生み出す力は身に付きません。グループの検討を踏まえて、更に自分の理解を深めるというプロセスは絶対に必要です。それが出来た個人が再びグループになって検討していけば、更によりよいものや新しい価値を生み出せます。そこそが協同的な問題解決のあり方です。

鎌田 高校や大学などで行われるグループワークでも、最初に出される

意見はきつと稚拙なものでしょう。しかしグループ内で批判を受ける中で、ブラッシュアップされていくはずで、最初から最後までグループではなく、周囲の力を借りて最後は自分の結論を出してみることが重要だと私も思います。自分の意見を批判されることは、自分をブラッシュアップするために必要なことだと考えられるようになるには、やはり一定のトレーニングが必要でしょう。

北川 学校でも、「それは違う」と拒絶するのではなく、「なぜそうなのだろう？」という問いを立てる習慣が必要だと思います。学びに対してのモチベーションの1つは、新しいもの、不思議なものに触れた時の驚きですが、驚きは自然発生的です。しかし、「なぜ？」と問いを立てることも学びのモチベーションになり、なおかつ、問いは自然発生的ではなく、本人の知的なスキルによって立てるものです。なぜこうなのか、そう言えるのかという問いを学校で立て続けることが、主体的な学びへとつながるのです。

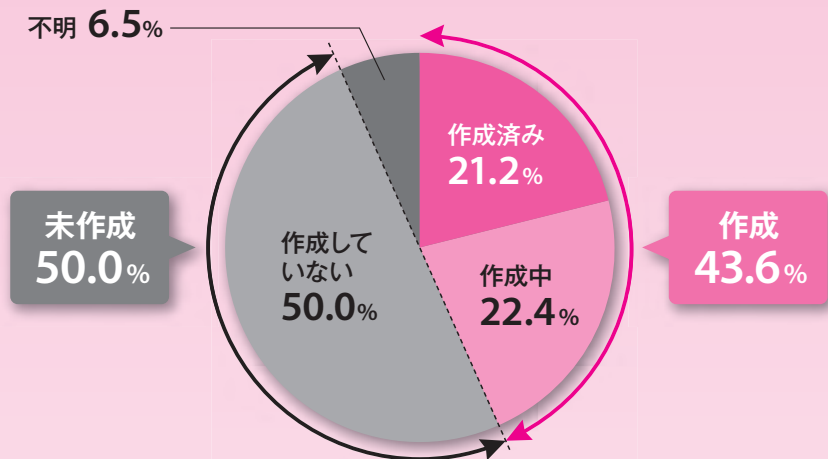
英語

指導と評価の 一体化を目指した CAN-DOリスト活用実践

4技能の総合的な育成や言語活動の充実、授業は英語で行うことを基本とするなど、
新課程の英語では、グローバル時代の要請に応じたさまざまな改善が求められている。
そこで、現場の教師が課題として感じているのが、
4技能の目標設定と評価の方法、それに基づいた指導改善の仕方だ。
今号では、指導と評価の一体化を行ってきた先進校の取り組みを通じて
英語の新課程指導のあり方を考える。

CAN-DOリストの形での学習到達目標の設定状況

Q. CAN-DOリストの作成を行っていますか



出典/ベネッセコーポレーション 2013年度「新課程レポート Vol.1」コミュニケーションシート集計結果(7月22日集計分)、
回答学校数 416校

学校事例 1

富山県立砺波高校

ライティングを軸に
英語による発信力を
段階的に評価

英語の学習に対する
生徒の意欲を注視

富山県立砺波高校は、文部科学省「英語力を強化する指導改善の取組」の指定を受けた2012年度から「発信型ライティング」の研究とそれを軸とした指導を実践している。

12年度に拠点校事務局長を務めた山本昭弘先生は、「生徒が卒業後、大学に入り、社会人となれば、英語によるプレゼンテーションをする機会があるでしょう。その時に重要になるのは、単なる英会話ではなく、自分の考えをきちんと述べ、相手を納得させられる話題を自ら発信できる力です。本校では、生徒や保護者

からの期待の大きい大学入試を突破する力にもつながる、ライティングに特化した発信力の強化を目指すことにしました」と研究テーマ決定の経緯を述べる。

同校は、「一から考えるといった無理はせず先進校の事例に学ぶ」とにかく動く」をスタンスに、教師が変わらなければ指導は改善されないという決意を英語科全体で共有し、研究に取り組んだ。

「発信型ライティング」への到達をゴールに、学年を縦軸、4技能の包括的指導を横軸としたCAN-DOリストを作成した。その内容は、先進校である福岡県立香住丘高校の取り組みを参考にして、1年生前期

をグレード1、1年生後期をグレード2というようにしてグレード6まで設定し、各グレードとも4技能それぞれに複数項目の評価基準を設けた。例えば、リスニングの11は「L11」、スピーキングの13は「S13」など、数字が大きいほど難易度が高くなる（P.22図1）。

各項目には、達成度を問う「Can-Do」、必要度を測る「Needs」の欄を設け、生徒は各4段階で自己評価を行う。生徒は「Can-Do」を重視するが、教師は「Needs」をより注視する。達成度よりも、英語に対する意欲が低い方が問題だと捉えるからだ。ネガティブな回答をした生徒には、成績の良し悪しにかかわらず、教科担任が注視し、授業で孤立しているようならグループの作り方を変えるなど、活動の仕方を工夫している。

12年度のCAN-DOリストは項目が多く、生徒が自己評価を行うのが難しかった。文言も教師目線の要素が強かったため、13年度分は、各グレードの評価項目を1年生は3項目、2・3年生は4項目にスリム化。生徒が各到達目標をイメージし



富山県立砺波高校
山本昭弘
やまもと・あきひろ
教職歴26年。同校に赴任して9年目。教務主任。



富山県立砺波高校
往蔵健
おうくら・たけし
教職歴21年。同校に赴任して4年目。英語科主任。

富山県立砺波高校

◎2012年度に文部科学省「英語力を強化する指導改善の取組」の指定を受け、国際人として必要な「発信型ライティング」の指導について研究を行っている。

- ◎全日制／普通科／共学
- ◎1学年約200人
- ◎2013年度入試合格実績（現浪計）／国公立大は、北海道大、東北大、金沢大、富山大、名古屋大、京都大、大阪大などに162人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大などに延べ251人が合格。

やすいよう、例えば「英文を読み、辞書を用いて各レッスンの全体の概要をつかむことができる」には《コミュニケーション英語Iの教科書の「Comprehension」ができる》という文言を添えるなど、具体的な状態目標を明記した（P.22図1）。

このリストは、生徒が目標を常に意識できるよう、授業で使うファイルの1ページ目に添付させている。

はどう思うか」と尋ねて2文程度で答える問題を出した。採点では、「It makes me happy.」のような意味のない解答には加点しない、生き物の大切さが分かる具体的な解答を評価するなど、採点基準を統一した。

当初、教師は、生徒が英語による授業についてこられるかと不安を抱いていたが、生徒は予想以上に積極的に取り組み、心配はひとまず杞憂に終わった。ただ、中には、英語への苦手意識をぬぐい切れずに、英語学習への意欲が更に低くなった例もあったという。英語科主任の往職健先生は、「生徒が気軽に質問に来られるような環境を整えたり、英語の授業以外でも日常的に声を掛けたりすることが、これまで以上に大切になると思います」と語る。

今後とも生徒の到達度を見ながら、CAN-DO リストを見直していく。

「CAN-DO リストは完成して終わりではなく、日々の授業に取り入れるべきものであり、生徒の状況に応じて定期的に見直しが必要です。今後はデータの収集や定期考査による評価方法の改善なども図りたいと考えています」（山本先生）

学校事例 2

北海道滝川西高校

CAN-DO リストとシラバスの一体化で、生徒が自身の英語力を客観的に把握

SELHi の経験を踏まえ CAN-DO リストを改訂

北海道滝川西高校は2007年度にSELHiの指定を受け、活動中心のコミュニケーション型な授業、CAN-DO リストを活用した指導と評価の一体化の研究に3年間、取り組んできた。その成果を受け、12年度からは文部科学省「英語力を強化する指導改善の取組」を行う。研究の焦点はSELHiで培った英語教育の基盤を、新課程や5つの提言と具体的施策で提示された方向によりマッチした形に修正・具体化することだ。木村滋雄先生は次のように述べる。

「本校ではSELHiの指定校の時か

の4観点の何に該当するのかを整理し、シラバス上に示した(P.25図3)。CAN-DO リストとシラバスを一体的に用いることで、評価の4観点と英語の4技能をバランスよく指導に組み込むことが出来た。

インプット→アウトプットの流れで英語運用力を高める

授業は基本的にほぼ全て英語で行われ、シラバスに基づいて同校が独自に作成したハンドアウト(配布用印刷物)に沿って進められる。

らCAN-DO リストを活用し、到達目標を意識した授業を実践してきた。目標設定・評価・指導改善は一連の流れで行うのが理想ですが、本校のそれまでのCAN-DO リストは項目が多く、必ずしも指導改善に結び付いていませんでした。13年度からは、CAN-DO リストの実効性を高めるために、シラバスと一体化させたものを新たに作成し、指導と評価の一体化を目指しています」

まず、生徒の実態、シラバスとの連動、具体的な評価方法を意識して、科目ごとに活動と時期を明記し、CAN-DO リストの項目を修正、整理、厳選(P.25図2)。更に、各活動が新課程で求められている評価

同校では、1年生の4〜6月に「コミュニケーション英語基礎」(1単位)、7〜3月に「コミュニケーション英語I」(3単位)、2年生は「コミュニケーション英語II」、3年生では「コミュニケーション英語III」「英語表現I」を配置。この履修進度に応じてCAN-DO リストのステップ1〜4の各到達目標と到達期限を設定した。指標は英検の級とGTECのグレードで、卒業までに英検2級取得とGTECのグレード4(440〜519)到達が目標だ。

各単元の授業の基本的なタスクの順序は次の通り。①帯活動—Small

Talkやトレーニング活動などを生徒の様子や授業内容に応じて選択↓
 ②背景知識—オーラルイントロダクション、短いプレゼンテーションなど
 ↓③理解活動—Listening活動からReading活動へ↓④取り込み活動 (Intake) — Outputに効果的につなげるための音読を適宜選択↓⑤表現活動 (Output) — リテラル、ディクトグロス、サマリーライティング、発表などを約2時間て実施し、Input → Intake → Output という流れの中で英語の運用力を高めていく。

ハンドアウトは、まずは1人の教師が作成する。それを担当教師間で検討し、その結果を受けて修正したものを生徒に配布する。教師全員が同じハンドアウトを使い指導すること、全ての生徒に一定の質の授業を保証している。13年度に赴任した畑野好美先生は、「ハンドアウトは、インプットからアウトプットの流れで英語の運用力を高める本校の指導法を具現化しているものでした。赴任したばかりの私もスムーズに授業が出来ましたし、授業は英語で行うことを基本とする新課程の指導を自信を持って進められました」と語る。

活動中心の授業にしてから宿題量は増やした。堀秀和先生はこう話す。「授業で出来ること・出来ないことを分けて考える必要があります。授業は、ペアワークなど学校でしか出来ないことを行う場です。一方、文法などの基礎事項は授業だけでは習得が難しいので、副教材などで家庭でも学習する必要があります。本校には家庭学習習慣が定着していない生徒が多いので、年度当初に年間

の家庭学習の内容と提出時期を一覧表にし、最初は強制的に提出させます。自分の力で副教材の内容が理解できたといった小さな成功体験を繰り返すことによって、自発的に学びに向かう生徒も少なくありません」

自己評価をする場面を増やし 自分で弱点を把握させる

CAN-DO リストと指導と評価の一体化の狙いは、教師が到達目標達成を目的に行った授業や定期考査などの指導を、自ら客観的に振り返り、1時間の授業の流れやタスクの実施方法、中・長期的な授業の横のつながりを見直すための授業改善のシステム (PDCA サイクル) を構築す

ること、生徒が自分の課題に自ら気づき、弱点克服に向けて学習方法を考える力や意欲を喚起することにある。つまり、教師と生徒が共にそれぞれの課題を分析し、共に改善に取り組むことで授業に一体感を生み出していくのである。

そのため、CAN-DO リストに基づいて授業や定期考査などで評価項目を設定し、生徒が自己評価を行う機会を多く設ける。例えば、授業冒頭には必ず「今日はfとvとthの発音が出来るように」と、リスニングの内容が分かることが「目標」などと、本時の目標を伝え、学習内容を意識させる。ハンドアウトでは、各活動に生徒が自己評価・他者評価を行う欄を設けた。各自が自身の達成度を測りながら授業は進む。

定期考査では、シラバスでの評価観点を各設問で明示する。生徒は、答案返却後に自分の足りないところを確認でき、教師の評価にかかる負担も軽減される。また、定期考査の結果を打ち込めば、観点別評価にリンクし、自動的に計算され結果がグラフ化される「観点別評価計算ワークシート」を表計算ソフトで作成、



北海道滝川西高校
木村滋雄
きむら・しげお
教職歴6年。同校に赴任して3年目。生徒会指導担当。



北海道滝川西高校
堀秀和
ほり・ひでかず
教職歴25年。同校に赴任して2年目。生徒指導担当。



北海道滝川西高校
畑野好美
はたの・よしみ
教職歴15年。同校に赴任して1年目。教務担当。

北海道滝川西高校

◎2007年度に文部科学省のスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール (SHIS) 研究開発校。12年度に「英語力を強化する指導改善の取組」の指定を受け、コミュニケーション型指導と評価のあり方について研究している。

◎全日制/普通科・ビジネス科/共学
◎1学年約280人

◎2013年度入試合格実績 (現浪計) / 国公立大は、小樽商科大、北海道教育大、室蘭工業大、弘前大などに17人が合格。私立大は、札幌学院大、北海道学園大、北海道医療大などに延べ116人が合格。

更にGTECや英検、模試のように、生徒自身も何が出来て、何が出来なかったのかをグラフで視覚的に把握できる個人票が配布可能なシステムを作成した。これを使って、生徒は自身の課題を自己評価し、各技能を

図2 普通科 CAN-DO リスト (新課程用)

Step1 [英検4級~3級 GTEC GRADE1 (0~299)~2(300~379)程度]
コミュニケーション英語基礎終了時まで

到達目標	・あらかじめ準備をして、自己紹介や、学校、町の紹介などについてのスピーチができる。
SPEAKING	・あらかじめ準備をして、自己紹介や、学校、町の紹介などについてのスピーチができる。
LISTENING	・初歩的な英語(実用英検3級リスニング第1部、第2部、教科書程度)であれば、短い会話やモノローグを聞き、概要を理解できる。
READING	・初歩的な英文(実用英検3級程度の短い手紙・Eメール・会話文等)であれば、初見で英文を読み、概要を理解できる。 ・教科書レベルの英文(コミュニケーション英語基礎)であれば正確かつ流暢に音読できる。
WRITING	・50語程度で自己紹介や家族、学校、町の紹介などのスピーチ原稿が書ける。

Step2 [英検3級程度、GTEC GRADE2 (300~379)程度] コミュニケーション英語 I 終了時まで

到達目標	・あらかじめ準備をしてスピーチができ、スピーチの内容についての質問に答えることができる。
SPEAKING	・身近なことに關しての簡単な質問に2文以上で答えることができる。 ・キーワードや絵を頼りにすれば、教科書の内容を話すことができる。
LISTENING	・あらかじめ準備をして、絵や写真などを用いた簡単なスピーチ(Show&Tell)をすることができる。 ・簡単な英語(実用英検3級リスニング第3部程度)であれば、比較的長い会話やモノローグを聞き、概要を理解できる。
READING	・簡単な英文(実用英検3級の説明文程度)であれば、初見で読み、概要を理解できる。 ・教科書レベルの英文(コミュニケーション英語I)であれば正確かつ流暢に音読できる。
WRITING	・3以上のグループであれば、教科書レベルの英文を聞いて、その内容を再生できる。(ワークシートで評価) ・簡単なスピーチ(Show&Tell)の原稿を70語程度で書くことができる。 ・身近なことや教科書の内容について意見、感想などを70語程度の簡単な英語で書くことができる。

Step3-1 [英検3級~準2級程度、GTEC GRADE3 (380~439)程度]
コミュニケーション英語 II 終了時まで

到達目標	・既習のレッスンであれば、教科書の内容を英語で説明することができる。
SPEAKING	・既習のレッスンであれば、自分でメモを取った後、教科書の内容を英語で説明することができる。 ・あらかじめ準備をして、自分の関心のある話題とその理由についてスピーチすることができる。
LISTENING	・実用英検準2級リスニング第1部、第2部、教科書程度の短い会話やモノローグを聞き、概要を理解できる。 ・実用英検準2級、教科書程度であれば、比較的長い会話やモノローグを聞き、概要を理解できる。
READING	・実用英検準2級程度の短い手紙・Eメール・会話文等を初見で読み、概要を理解できる。 ・実用英検準2級程度の比較的長い説明文等を初見で読み、概要を理解できる。
WRITING	・ペアで協力すれば、教科書レベルの英文を聞いて、その内容を再生できる。(ワークシートで評価) ・70語程度でスピーチの原稿とその理由を書くことができる。 ・身近なことや教科書の内容について、70語程度で意見、感想などとその理由を書くことができる。

Step3-2 [英検準2級程度、GTEC GRADE3 (380~439)程度]
2年生後期終了までに(英会話終了時まで)*英会話を選択した生徒

到達目標	・既習のトピックについてであれば、ALTやJTEと3分間程度の会話を続けられる。
SPEAKING	・身近なトピックについてであれば、ALTやJTEと3分間会話を続けられる。
LISTENING	・日常生活の中でよくある場面についての英語のダイアログを聞き概要を理解できる。

Step4-1 [英検準2級~2級、GTEC GRADE4 (440~519)程度] コミュニケーション英語 III 終了時まで

到達目標	・与えられたトピックについて、自分の考えや感想を英語で話すことができる。
SPEAKING	・与えられたトピックについて、自分の考えや感想を話すことができる。
LISTENING	・実用英検2級第1部、第2部、教科書程度であれば、短い会話・モノローグを聞き、概要を理解できる。 ・実用英検2級、教科書程度であれば、比較的長い会話やモノローグを聞き、概要を理解できる。
READING	・実用英検2級程度の短い手紙・Eメール・会話文等を初見で読み、概要を理解できる。 ・実用英検2級程度の比較的長い説明文等を初見で読み、概要を理解できる。
WRITING	・与えられたトピックについて、自分の意見や感想を100語程度で書くことができる。

Step4-2 [英検準2級~2級、GTEC GRADE4 (440~519)程度] 英語表現 I 終了時まで

到達目標	・与えられたトピックについて、ディスカッションやマイクロディベートをすることができる。
SPEAKING	・与えられたトピックについて、賛成・反対とその理由を話すことができる。 ・与えられたトピックについて、JTEやALTの立論に対し、理由をつけて反論することができる。
WRITING	・与えられたトピックについて、自分の考え(賛成・反対)とその理由を100語程度で書くことができる。 ・聞いた立論の内容の要点(賛成・反対、理由の数、理由の内容など)を再生できる。 ・与えられたトピックについて、JTEやALTの立論に対し、反論とその理由を100語程度の分量で書くことができる。

*学校資料を基に編集部で作成

伸ばすための目標を立てている。どうすれば英語がうまくなるか生徒は自ら学習方法を考える

自己評価を繰り返すことで、生徒は客観的に自分の英語力を分析できるようにになると、畑野先生は語る。「英語が苦手な生徒は『文法が分からないから嫌い』などと言うこと

が多いのですが、本校の生徒は『言いたいことがうまく伝えられないから苦手』と言います。自己評価でも、『初見の文章を読むのが苦手』というように、どうすればうまく英語を使えるようになるかという観点で勉強の仕方を考えています。そのような生徒が増えたのも、教材の工夫と日々の自己評価の積み重ねのおかげ

だと感じています」(畑野先生)

成果は着々と上がり、SELH指定校の時と比べても、生徒の英語力は大幅に伸長。英検は13年6月段階で、2年生の8割が準2級を取得。数年前まで2人程だった2級取得者は3年生で10人程になった。大学入試でも、推薦入試で東京都の難関私立大学の合格を勝ち取る生徒も現れた。

図3 「コミュニケーション英語I」のシラバス(抜粋)

月	単元名	学習内容	評価規準	評価の観点				評価方法
				①	②	③	④	
6	LESSON1 Do You Understand This Emotion?	メールで使われる顔文字の意味を学ぶ。 ・時制、進行形、接続詞、助動詞	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。 簡単な英文(実用英検3級の説明文程度)であれば、初見で読み、概要を理解できる。 英語の学習を通して言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	●		R		初見リーディングテスト 小テスト(後日)
6 7	LESSON4 Sports over Nationality?	スポーツと国籍の関わりについて学び、自分の好きなこと、興味についての英文を書く。 ・to不定詞、It is ~ to不定詞	身近なことや教科書の内容について意見、感想などを70語程度の簡単な英語で書くことができる。 身近なことや教科書の内容について意見、感想などを70語程度の簡単な英語で書くことができる。 英語の学習を通して言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	W		W		ライティング課題 小テスト(後日)
7	LESSON3	動物が人を助けるストーリーを学ぶ。	キーワードや絵を頼りにして、教科書の内容を話そうとしている。					ロールプレイ

*学校資料から抜粋して編集部で作成

「本校の生徒は高校入試の得点率は50%前後で、成績上位層ばかりが入学するわけではありません。そうした生徒でも、CAN-DOリストやハンドアウトを工夫すれば、英語による活動中心の授業は可能なことを示せたと思っています」(木村先生)

今後、CAN-DOリストによる評価を基に指導改善を進めていく。



埼玉県立
川口北高校

学校改革

目指す学校像を明確にし 人間的成長を促す 真の文武両道を具現化

◎目指す学校像は「あらゆる教育活動をとおして、人に親切に、人を思いやる心を常に持ち、日本及び国際社会に貢献できる生徒の育成」。「学力向上」と「体力・精神力の充実」を二大柱に文武両道の教育活動を展開し、学業と部活動の両面で実績を伸ばしている。

設立	1974年(昭和49)年
形態	全日制/普通科/共学
生徒数	1学年約360人
13年度入試合格実績(現浪計)	国公立大は、東北大、筑波大、埼玉大、千葉大、東京学芸大、東京農工大、一橋大、横浜国立大などに54人が合格。私立大は、青山学院大、慶應義塾大、東京理科大、早稲田大などに延べ944人が合格。
住所	〒333-0831 埼玉県川口市木曾呂1477
電話	048-295-1006
Web Site	http://www.kawaguchikita-h.spec.ed.jp/

変革のステップ

背景

◎学校全体の指導の軸がなく、学習指導や部活動の指導は学年団や個々の教師に委ねられていた

STEP 1

実践

◎目指す学校像を明確にし、グランドデザインを作成、共有。全ての教職員で連携しながら文武両道の理念を具現化

STEP 2

成果

◎2013年度入試で国公立大合格者数が54人と過去最多に。複数の部が全国大会や関東大会に出場するなど活躍

STEP 3

学校全体の指導の軸がなく
生徒の力を伸ばしきれない

埼玉県立川口北高校では、2007年頃から、目指す学校像を基軸にした指導体制の体系化を進めてきた。その頃の同校は、私立大を中心に進学実績が高かったものの、国公立大合格者数は伸び悩んでいた。部活動も、優れた実績を上げる部もあったが、「学校全体で盛り上げる」ムードは薄かった。07年度に赴任した教務主任の村上茂先生は、当時を次のように振り返る。

「個々の教師や学年団の単位では、担当教科や部活動の指導などで最大限の努力をしていたと思います。それでも、進学や部活動で生徒をもっと伸ばせる余地が残っていたのは、学校全体として、育てたい生徒像を明確にした指導がされていないからではないかと思いました。例えば、カリキュラムを検討する場合でも、『大学入試に直結する科目を中心に履修させればよい』という考え以上に、深く検討されることはありませんでした」
村上先生と同年に赴任した進路指導主事の篠田俊文先生も、次のように話す。

「当時は、『生徒に国公立大合格を期待するのは厳しいのではないか』という雰囲気でしたが、模試の結果などを見ると、生徒の資質は十分にあると感じました。私たち教師が生徒の力を伸ばせていないのではないかと

思いが、だんだん強くなっていききました」

小さな変革を積み重ねながら 目指す学校像を議論

目指す学校像を明確にして、学校全体で生徒を指導する体制を整える必要があるのではない



埼玉県立川口北高校教頭

鈴木良典 すずき・よしのり

教職歴35年。同校に赴任して3年目。「今の目の前の生徒の力をいかに伸ばすか」に組織として取り組めるよう支援したい」



埼玉県立川口北高校

森田洋正 もりた・ひろまさ

教職歴32年。同校に赴任して3年目。生徒指導主任。「学ぶことを止めた時、教えることを止めなければならぬ」



埼玉県立川口北高校

村上茂 むらかみ・しげる

教職歴27年。同校に赴任して7年目。教務主任。「生徒には、他者の幸せを自分の喜びと感じる人間に育ててほしい」



埼玉県立川口北高校

篠田俊文 しのだ・としふみ

教職歴14年。同校に赴任して7年目。進路指導主事。「青は藍より出でて藍より青し。生徒には常に自分を超えていってほしい」



埼玉県立川口北高校

浅見礼文 あさみ・れぶん

教職歴5年。同校に赴任して2年目。2学年担任。「生徒のやる気や人間的成長を後押ししていきたい」

か——。そう考えた村上先生や篠田先生らを中心として、学校のブランドデザインの模索が始まった。09年度には「高い志のもと進学校としての確かな学力と健全な心身を養い、文武を兼ね備えた21世紀の社会に貢献できる生徒の育成」が掲げられ、「学力向上」と「体力・精神力の充実」を柱とする文武両道の理念が明確になっていった。

このような理念は、実際の改革を進める中で形づくられてきた。例えば、実践が進められた篠田先生の学年では、3年生で「HR合宿」を実施した。富士山麓で2泊3日、合宿形式で受験勉強に取り組む行事で、以前、行われていたのだが、中断していた行事である。更に、健全な心身を養う一環として生活指導に力を入れ、それまでは黙認していた服装の乱れを厳しく注意するようになった。

「受験は団体戦とよくいわれます。最後まで全員で頑張る雰囲気をつくるのに『HR合宿』は絶好の機会だと考えました。また、私の学年はスタート時より、先輩学年から受け継いだ『チーム川北』というキーワードを常に意識しました。学年団が一体となって生活指導や学習指導、学校行事などに取り組むうちに、生徒にも『チーム川北』が浸透していききました」（篠田先生）

実践での成果が見えたことにより、育てたい人間像の具体化の議論も進んだ。10年度には、

「地域のリーダーになり得る人」「心身ともにバランスのとれた人」「国際社会に貢献できる人」「生涯にわたり学び続ける人」という4つの人間像が職員会議で提示され、学校づくりの軸が学校全体で共有された。

生徒にとって良いことならば 今までの形を壊してもよい

10年度に赴任した田村和夫前校長は「この方向性で取り組んでいく」と明言。目指す学校像が「あらゆる教育活動をとおして、人に親切に、人を思いやる心を常に持ち、日本及び国際社会に貢献できる生徒の育成」と固まり、進むべき道が明確になった。12年度に赴任した渡邊秀昭校長もこの方向性の継続を明言し、改革は前進を続けてきた。生徒指導主任の森田洋正先生は、込められた思いを次のように話す。

「何かに対して、努力やつらい経験をし、痛みを知っている人間こそ、他人の痛みを理解し、助けることが出来るのだと思います。勉強、部活動も含めて全ての生活の場面で自ら考えて、努力し、苦しい思いも乗り越えていく経験を通じ、率先して他人を助けられるリーダーを育てていきたいと考えています」

森田先生と同年に赴任した鈴木良典教頭の提案で、進路指導部が生徒の意欲・状況を踏まえた3年間を見据えた進路指導計画を作成した。

「目指す学校像の具現化のために、3年間
でどのような指導をすればよいのかを全校で
目線合わせたいと考えました。面談、模試、
行事の時期について、『なぜこの時期が良い
のか?』と考えながら作成したことが良かつ
たと思います。指導の意義も含めて、全校で
共有できました」(鈴木教頭)

授業時間の見直しも、学校全体での「学び」
を考える機会となった。新課程に伴う授業時間
の増加への対応などのため、授業時間を65分か
ら55分に短縮することが検討された。教師が分
担して55分授業を行う各校を視察し、教師全員
で検討を重ねた。村上先生は、検討会でのある
言葉が忘れられないという。

「授業の長さを変えられるとは思わなかつ
た」という言葉です。教育は与えられた形の
中で行うものだ、と考えていた教師は少なく
なかったと思います。55分授業導入の検討に
よって、『生徒の育成にとって良いことなら
ば、今までの形を壊してもよい』という考え
方が浸透し、改革が加速した実感があります」
55分授業の検討は、教師が文武両道のあり方
をより深く追求する機会にもなった。

「55分授業が導入されると、授業終了が15
分遅くなります。本校は午後7時完全下校と
決まっていますので、部活動の時間が短縮され
ることになります。下校時刻を15分延ばす案
も出しましたが、その時に前校長が『時間が短

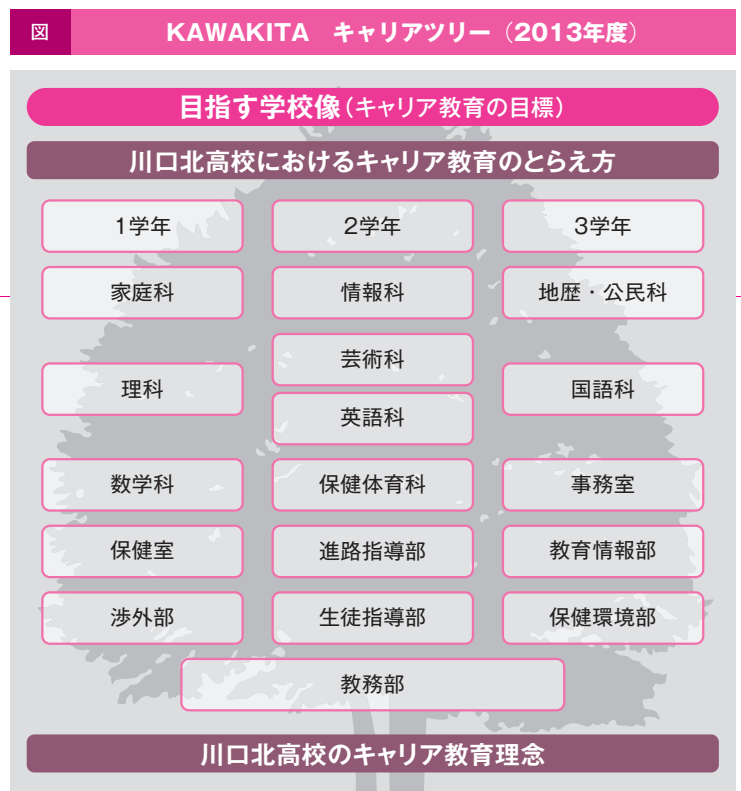
くても、学習も部活
動も工夫して結果を
出すのが、本校の文
武両道です」と明言
されたのです。ここ
で、私たちも改めて、
本校が掲げる文武両
道の本質を見つめ直
しました」(鈴木教
頭)

55分授業の導入の他
にも、自学自習習慣の
定着や、きめ細かい補
講の実施など、生徒の
学力向上への取り組み
が重ねられた。

学習にも部活にも全力で取り組む ことが相乗効果を生む

同校が掲げる文武両道は、学習と部活動の両
立という意味ではない。学習にも部活動にも励
むことによって、「主体性や実行力」「課題発見・
課題解決能力」「チームで働く力」が育ち、人
間的な成長を促すと考える。森田先生は次のよ
うに説明する。

「本校の生徒は、小・中学校では勉強でも
スポーツでも苦勞せずにある程度の結果を残



目指す学校像に向けて、キャリア教育のとらえ方や理念と共に、教科や組織の役割が示されている。*上記は、構造のみを編集部が簡略化したもの。具体的な内容や役割が書かれた正式な図は、[ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト](#)をご覧ください。

せた子どもが大半です。それゆえに、『もつ
と出来るのでは?』と更に高みを目指して、
自分の殻を破ってほしいと思うのです。学習
にも部活動にも全力で取り組むことは、体力
的にも精神的にもきついでしょう。しかし、
そこから逃げずに、自分なりに工夫しながら
小さな成功を積み重ねることによって、忍耐
力や粘り強さが育ち、文武の相乗効果が生
まれると私たちは考えます」

文武両道の具現化には、教師が生徒を丁寧に
見取ることが欠かせない。2学年担任の浅見

文先生は次のように話す。

「学習面において、課題をこなしきれずに余裕をなくしている生徒がいないか、生徒の内面を捉えられるように気を付けています。生徒の部活動の顧問とも生徒の様子を共有しながら、声の掛け方がバラバラにならないように指導方針を統一しています」

面談も密に行う。年5回の面談期間ではそれぞれ二者面談、三者面談、部活動での面談などを通じ、生徒を多面的に把握する。また、同校では校長自らが生徒全員に面談を行うが、これは、一人ひとりの生徒が高い目標を掲げるためにも効果があるという。

こうしたきめ細かい指導により、13年度大学入試では、国公立大合格者が過去最多の54人となり、部活動では、男子バスケットボールがインターハイ出場、弓道、水泳が関東大会出場、男子ハンドボールが埼玉県ベスト4、女子ハンドボール、サッカー、ラグビーがベスト8など、文武ともにめざましい結果を出した。

全教職員の力を合わせて 生徒を育てていく

同校の学校改革が成功した背景には、教師間で目指す学校像、そのための手立てが共有されていたことがある。共有化に大きく貢献したのが「キャリアアツリー」(図)の作成だ。目指す

学校像を明確にし「人づくり」に学校全体で取り組む同校の実践は、キャリア教育としても捉えられる。その教育に、校内の全教職員がかかわっていることを示したのが「キャリアアツリー」だ。

「キャリアアツリー作成によって、教師間の連携と自己肯定感が生まれました。生徒の間としての成長において、自分が担う役割が明確になると同時に、皆で力を合わせて生徒一人ひとりを育てているのだという構造を共有できたのです。部活動指導や進路指導に直接かかわらない教職員も、部活動や進学で生徒が活躍するのをますます喜び合うようになりました」(篠田先生)

情熱 若手教師が語る、指導変革への

生徒が「伸びたい」と思った時に 伸ばせるプロの教師を目指したい

2学年担任 浅見礼文

本校に赴任して2年目になります。着任時には既に改革が浸透しており、その指導体制の中で進めれば生徒は動いてくれましたが、だからこそ危険を感じました。さまざまな施策が実施されることになった経緯や意図を把握せず、ただ取り組みを繰り返すことになれば、受け身な教師になる恐れがあると思ったからです。生徒を「受け身になるな」と叱咤(しっぺ)する前に、自分が責任と主体性を持って取り組まなければならないと痛感しています。

本校の改革を推進してきた村上先生や篠田先生からは、「生徒を育てるために必要だと思うなら、今までのシステムでもどんどん変えて、学校全体としての合意を得ながら新しい一手を打ってほしい」と言われています。プレッシャーもありますが、生徒に必要なことを考え、実行に移せる環境があることには、やりがいを感じます。

私が目指す教師像は、「人を鍛えられる教師」です。生徒が「こう伸びたい」と思った時に伸ばせるプロの教師でありたいと思います。現段階では、担当教科である地歴や部活動での指導力を磨いて、「教師に追いついてもらえるのではなく、自ら追い込む生徒を育てる指導」を実現していくことが目標です。生徒一人ひとりをよく見て、生徒同士も互いに刺激を受けながら、将来の高い目標に向かう場をつくっていきたいと思っています。

テニス部の顧問を務める浅見先生も言う。

「学業と部活動で、時間を取り合うようなことはありません。全ての教育活動で生徒を育てていると実感しているからこそ、どの部活動でも学習指導が大切だとしっかりと伝えていくのは本校の良さだと思っています」

同校が今後の課題として挙げるのは、生徒の主体的な学びを引き出す学びの実現だ。授業改善も含めた量に頼らない指導のあり方を、研究授業などを通じて模索したいと考えている。

「体制が整ってきた現状に甘んじるのではなく、生徒のために有益な取り組みになっているのかを検証しながら、組織の力で更に発展させていきたいと思っています」(鈴木教頭)



三重県立
朝明高校

協同学習

協同学習により 生徒の対話力と 役割を果たす力を育む

◎「時を守り、場を清め、礼を正す」を教育指針として、学業・個性・品性の調和のとれた社会人の育成を目指す。普通科に進学・ビジネス・自然環境・アスリートの各コースを設置。ラグビーは花園に出場、レスリングはアジア大会に出場、自転車競技は世界大会に出場などの実績がある。

設立	1978(昭和53)年
形態	全日制／普通科・ふくし科／共学
生徒数	1学年約240人
13年度入試合格実績(現浪計)	私立大は、拓殖大、帝京大、愛知工科大、東海学園大、名古屋外国語大、名古屋学芸大、名古屋商科大、日本福祉大、鈴鹿国際大、四日市大などに延べ23人が合格。他に、短期大9人、専門学校50人、就職128人。
住所	〒512-1304 三重県四日市市中野町2216
電話	059-339-0212
Web Site	http://www.mie-c.ed.jp/hasake/

変革のステップ

背景

◎社会で求められるコミュニケーション力や仲間の中で役割を果たす力、学びへの参加意識の低さに課題があった

STEP 1

実践

◎グループでそれぞれの生徒が役割を担い、対話をしたり、問題を発見して課題を実現したりする協同学習を導入、実践

STEP 2

成果

◎生徒同士の対話が活発になり授業への取り組みが主体的に。コミュニケーション力、仲間への貢献意識、自己肯定感も高まる

STEP 3

自己肯定感を高めて
自分の学びとして取り組んでほしい

三重県立朝明高校が、校内の集団づくり、進路意識の醸成を目的とした改革に着手したのは2004年のことだ。自尊心の低い生徒に居場所をつくるための教育コーチングの導入、早期離職を防ぐための進路意識の醸成や就職内定後の支援のための取り組みは、本誌08年10月号で紹介した。

一連の改革で、退学者数や卒業生の離職率が低下するなどの成果が出た後は、進路指導から授業改善へと学校改革の軸足を移していく。次に焦点を当てたのは、協同学習を軸とした授業づくりだった。竹内均校長は次のように話す。

「『時を守り、場を清め、礼を正す』という指針は生徒に浸透してきていると思います。素朴で素直な生徒たちですが、自己肯定感の低さは依然として課題でした」

進路指導部主事で商業科担当の井波利彰先生も、次のように続ける。

「これからの社会で貢献していくためには、仲間とコミュニケーションを取りながら、自分の役割、責任を果たせる力が必要です。仲間と共に問題を発見し、課題を実現する経験を通じて、コミュニケーション力を付け、役割を果たせたという自信、自己肯定感を高めさせたいと考えていました」

学びに対する消極的な姿も課題だった。3学年担任で国語科を担当する丸野浩一郎先生は、次のように話す。

「6年前に本校に赴任して最初に感じたのは、授業をなんとかしたいということでした。学びに対して無気力な生徒たちの様子を感じ、自分の勉強として捉えてほしい、学びの楽しさを知って授業に取り組んでほしい、と思ったのです」

これらの課題を改善するための活路として取り組み始めたのが、協同学習だった。



竹内 均 たけうち・ひとし
三重県立朝明高校校長
教職歴33年。同校に赴任して3年目。「明鏡止水の心境にて、生徒を受け入れることから教育は始まる」



井波利彰 いなみ・としあき
三重県立朝明高校
教職歴15年。同校に赴任して6年目。進路指導部主事。「社会に出て自立し、共生することが出来るしなやかな心を持った生徒を育てたい」



丸野浩一郎 まるの・こういちろう
三重県立朝明高校
教職歴21年。同校に赴任して6年目。3学年担任。「愛情を持って生徒に接し、愛情を持って授業を行う」



福井彰子 ふくい・あきこ
三重県立朝明高校
教職歴13年。同校に赴任して5年目。1学年担任。「教師は授業で勝負。私自身が学ぶ姿勢を生徒たちに見せていきたい」

初めての協同学習で 対話を始めた生徒たち

08年、井波先生と丸野先生を含む教師4人が授業改善検討委員会（以下、委員会）を立ち上げ、協同学習の研究を始めた。

井波先生も丸野先生もゼロからのスタートだった。井波先生は、08年9月に行った初めての授業公開の際に、協同学習と「郷土学習」を取り違え、四日市市の歴史に関する資料を用意していたほど無知だったと明かす。急いで授業の構成を変えて臨んだ授業公開で、井波先生はKJ法（*1）を使ったグループ学習を試みた。この時の生徒の反応から、協同学習に対する確かな手ごたえを感じ取ったと、井波先生は話す。

「グループで取り組む課題を出すと、これまでは授業に参加していなかった生徒たちが、『僕はこう思う』『それは違うよ』『それ、いいね』などと対話を始めたのです。それは、人間としてのコミュニケーションであり、このような教科書だけでは教えきれない社会の基礎となる力を、協同学習を通して伝えられるのではないかと感じました」

以来、井波先生は担当教科の商業の授業で、協同学習を取り入れてきた。その手法は、授業の目的に応じて変える。「働く目的を考える」といった大きなテーマの時は、授業全てを協同学習に充てる（P.32コラム参照）。確実に覚え

させたい内容の時、生徒の落ち着きがない時、生徒が眠そうな時などは部分的に、3〜5人1組のグループによる協同学習を行う。

委員会は、出来るだけ多くの教師が協同学習を実践できるように、先進校の視察、校内での勉強会、協同学習に力を入れる近隣校との研究授業などを行い、研究を進めた。しかし、校内の普及は限定的で、実践の広がりには課題があった。

「既に協同学習を実践されている先生は効果を実感されていたので、他の先生方にその良さを感じていただくことが課題でした。協同学習と聞くだけで身構えられる先生もいて、私の授業を見てもらっても、『自分の教科では無理』『出来る先生はやればいい』と言われることもありました」（井波先生）

役割を果たす責任感、 仲間と協同する喜びを学ぶ

第2期の改革を始めてから3年。試行錯誤の中、協同学習を普及させるため、委員会は授業とは別の方向からアプローチを試みる。学年全体で行うキャリア教育に、協同学習を取り入れることにしたのだ。11年9月、2年生で協同学習の手法による進路学習「進路実現のために、今、知っておくべきこと」が実施された。手順は次のとおりだ。

各クラス6人1組のグループをつくり、各人

*1 プレーンストーミングで出されたアイデアをグループ化して、論理的に整理して問題解決を導く手法。

がそれぞれ1〜6組の教室に赴き、待機している教師や外部の大学関係者などに話をしていた
だき、インタビューを行う。社会人として必要
なこと、進路実現のためにすべきことなどを聞
き取り、自分のグループに戻って、メモを見な
がらインタビューの内容をメンバーに口頭で伝
える。各人はそれぞれの話をワークシートに記
録し、インタビューの感想や自分の役割が果た
せたかどうかを振り返りシートに記入する。

同じグループのメンバーは、自分が聞いた話
を直接聞いていない。自分が聞き漏らしたらメ
ンバーに伝えることが出来ないため、生徒は真
剣に話を聞いてメモを取る。インタビューから
進路実現のために必要なことを学ぶと共に、グ
ループの中で役割を果たすことの責任感と喜
び、仲間と協力する大切さなどを学ぶ。

失敗してもよい 生徒を信じ、任せる姿勢が大切

実施に際し、2学年団は委員会と勉強会を行
い、協同学習やキャリア教育について理解を深
めてから本番を迎えた。学年が団結して協同学
習に取り組むことが出来たのは、社会で求めら
れるコミュニケーション力を生徒に身に付けさ
せたいという思いがあったからだ。当時2学年
担任だった福井彰子先生は次のように述べる。

「本校の生徒は、受け身で指示待ち傾向が

協同学習・井波先生の実践例

「今日の授業では対話が大切です。嫌な言葉を掛けたら相手は嫌な気分になるよね。気持ちよく活動が出来るように、しっかり友だちとコミュニケーションを取りましょう」と言うと、井波先生は持っていたボールを生徒に投げた。受け取った生徒は先生に投げ返す。先生はまた別の生徒にボールを投げる。キャッチボールを通して対話の大切さを体感させるのだ。

テーマは「『働く』とはどういうことなのかを考える」。井波先生が受け持つビジネスコースの3年生で、商業の課題研究の授業として行われた。進め方は学年全体で行うキャリア教育と同じ。養護教諭や学校教育技術員、図書館司書など、教室で待機する教職員のところに行き、働く意義ややりがい、苦勞について話を聞き、グループで共有して感想をまとめる。

「一生懸命働いて学校がきれいになったり、生徒がごみの分別をしてくれたりするとうれしいですし、やりがいを感じます」(学校教育技術員)、「生徒の元気がなかなか回復しない時はつらいです。担任の先生方と話し合って、最善策を考えるようにしています」(養護教諭)

メモ帳を片手に質問を投げ掛ける生徒たち。真摯に答える教職員の姿から、働く意味や対話の楽しさ、難しさを学んでいく。一通り終わると生徒は教室に戻り、順番に報告する。メモを見ながら、グループのメンバーに自分が聞いてきたことを伝える。「きちんと報告できれば生徒には自信になります。自分が責任を果たさなければ、活動が成り立たないことも学べます。また、教えることで深い学びを引き起こします。教師が言葉で伝えるよりも、はるかに大きい気づきが協同学習にはあります」と井波先生は語る。



教師からの信頼を基に自力で行動し、グループの活動に貢献できたという達成感や自己肯定感、仲間と共に問題を発見し、課題を実現することの面白さの実感が、生徒を主体的な学びに向かわせる推進力となる。

「やりがいは生徒の元気な顔を見ること」と語る養護教諭。生徒は一生懸命にメモを取る

強く、コミュニケーションも苦手です。就職希望者が多いので、コミュニケーション力を付けさせたいという思いは、どの先生も持っていました。私も他の先生も、協同学習の経験はなく、学年でも初めての試みだったので、生徒が指示通りに動けるのか、きちんとメモを取り、グループのメンバーに伝えられるのか不安でしたが、生徒は私たちの期待以上に役割を果たしていました。この生徒には無理

だと決めつけてしまうと、その時点で生徒のチャンスをつぶしてしまうのだと実感しました。失敗してもよいという気持ちで、生徒を信じ、任せることが大切なのだと感じました。いつもは教師の話を集中して聞けないことがある生徒たちが、その日は自分で決められた教室に行つてインタビューを行った。つたないながらもメモを取り、一生懸命メンバーに報告する姿があちこちで見られた。「必死にメモを取

*2 ベネッセの小論文・表現学習教材。書いて伝えることを通して、生きた表現力を総合的に育成することを目指している。

っている」「あの生徒があんなことを言っている」。普段の授業では見ることのなかった生徒たちの姿に、教師たちは驚きの目を向けていた。

協同的な学びの中で 生徒が輝く瞬間がある

この取り組みには20人以上の教師がかかわっており、協同学習の効果を実感し、教科の授業に取り入れる教師が増えていった。キャリア教育における協同学習は、ノウハウが確立したこともあり、学校全体の取り組みとして定着した。学年全体で実践する教科もある。丸野先生は、12年度、2年生の「国語表現」の授業で4人1組での協同学習を始めた。ベネッセの『表現トレーニング』（*2）を使い、発想力や論理的思考力など表現力の基礎を身に付ける授業である。実施当初は、生徒間の対話を促すだけでも一苦労だったという。

「最初はグループをつくるだけで5分、10分掛かり、課題を与えても、話し合いの出来るグループはわずかでした。私がグループを1つずつ回り、黙っている生徒に発言を促すなど、一人ひとりが話しやすい状況をつくる

ところから始めました」
粘り強い指導の結果、生徒の対話も次第に活発になっていき、年度末のアンケートでは一斉授業より協同学習の方が面白いと回答する生徒

が多くなった。この結果を受け、13年度1学年からは全クラスの「国語総合」の授業で協同学習を取り入れることになった。

「生徒の多くは、中学校で協同学習を経験しています。2年生から実施するよりも、入学当初から協同学習を始めた方が、生徒もその方法に慣れ、他教科でも取り入れやすくなると思います」（丸野先生）

今後の課題は、更に多くの教師が協同学習に取り組み、学校全体の動きにしていくことだ。竹内校長は次のように抱負を述べる。

「生徒指導をキャリア教育の一環と位置づけたこともあって、生徒の授業態度はここ数年で格段に落ち着き、教師間の風通しも良く

なつてきました。しかし、まだまだ個々の先生方の力に頼っている部分があり、学校の組織力を向上させていく必要を感じています。先生方一人ひとりが主体的に動ける職場づくりを心掛けたいです」

「協同学習では、『へえ〜!』と言って、生徒の顔が輝く瞬間が必ずあります。日頃から生徒との信頼関係を大切にし、対話の大切さなどを伝えておく必要がありますが、教師がしっかりと準備して授業に臨めば生徒は変わることを、まだ協同学習を実践していない先生方に知っていただきたいです。それがここ数年、協同学習に取り組み、その効果を実感してきた私の役割だと思えます」（井波先生）

情熱 若手教師が語る、指導変革への

教師自身ももっと勉強し 生徒の世界を広げたい

1 学年担任 福井彰子

現在、授業改善検討委員会のまとめ役を務めています。委員会の活動では、取り組みが思うように進まないこともあり、自分のふがいなさを感じることも少なくありません。担任としての仕事が忙しいということ言い訳にして後回しにせず、主体的に取り組まなければ何も進まないと感じています。

本校には、思いがあってもなかなか言葉に出せない生徒、教師の話听不懂な生徒もいます。そうした生徒には、コミュニケーションを取りやすい協同学習は効果的です。担当している英語の授業でも、生徒同士のかかわりを増やして、自分も参加したいという気持ちを持たせることが大切だと考えています。まだ授業のほんの一部で取り入れることしか出来ませんが、生徒同士で感想を言わせる、知っている単語を教え合わせるなど、小さいことから積み重ねていこうと思います。

毎時間の授業での生徒とのかかわりを大切にしていきたいと、私は思っています。生徒にやる気がない、能力が低いといって諦めるのではなく、そういう生徒たちを前に向かせるのが教師の仕事だと思うのです。私自身が向上心を持っていないと、生徒は付いてこないでしょう。教師が楽しく授業を出来なければ、生徒も面白く感じないはず。私自身が英語について、世界のことにしてもっと勉強し、英語の楽しさ、勉強する素晴らしさを伝えていきたいと思っています。

今回のテーマに関連する過去の記事はベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでご覧いただけます。

2010年12月号指導変革の軌跡「岡山県立邑久(おく)高校」など

▶▶▶ <http://berd.benesse.jp> → HOME > 教育情報誌(高校向け)

「もっと響く指導」にするために！ 生きたデータの徹底研究

「データ」を活用して客観的に生徒の状況を捉え、指導の方針を整理する方策を伝えてきた「生きたデータの徹底活用」。更に響く指導を実現するために、現場の先生方と改めて指導のポイントを確認し、「データ」の改良を検討します。

テーマ 2年生 夏休み明けの意識付け



「生きたデータ」2008年9月号を参考に、2年生夏休み明けの指導に取り組んだところ……

① 夏休み後のアンケート(5段階評価)

	できた	まあできた	どちらでもない	あまりできていない	できていない
部活動への取り組み方はどうでしたか？					
夏休みの課題への取り組み方はどうでしたか？					
課題以外の自主学習の取り組みはどうでしたか？					
規則正しい生活はできましたか？					
進路について考えましたか？					
夏休みならではの経験、夏休みだからできる取り組みができましたか？					



私の狙い

あまり勉強が進んでいない生徒を把握し、入試や進路選択に向けての意識付けを行うおうとした

取り組み内容

夏休みの取り組み内容を尋ねるアンケートを実施し、その結果を元に面談を行った

感じた課題

生徒の夏休みの状況を把握した上で、特に中間層の生徒に対して学習への意識を高めてもらうとう働き掛けたが、具体的な意識向上までには至らなかった

「もっと響く指導」のポイント

①

「生徒同士の比較によって「もっと頑張れる」に気付かせる



以前、2年生担任を務めた時、「中だるみの雰囲気を払しょくするカギを握るのは、**成績面でも進路面でも危機感をさほど抱かず、更なる意欲を持って主体的に学びに向かうことはしない中間層だ**」と思いました。夏休み明け、彼らの意識を高めて、学習に積極的に向かうクラスにしたいと考えました。



2年生2学期は、高校生活の折り返し地点として志望進路の実現へ向けた意識付けが大切な時期ですから、集団の雰囲気に大きく影響を与える中間層に働き掛けることは重要ですよ。ただ、与えられた課題はこなし、生活態度も特に問題がないので、教師の実態把握が甘く、指導も手薄になりがちです。



前回、「今努力すればもっと伸びる可能性があるのに」という生徒に「苦手克服などテーマを決めて学習に取り組んでは？」と面談でアドバイスしたのですが、生徒の学習の取り組みを変えることは容易ではありませんでした。



「自分にはここが足りないのでは？」と自ら気付かせたいですよ。そこで、**私が重視しているのは、生徒同士で刺激を与え合うことです。「このままでよい」と思っている生徒に、「身近にもっと頑張っている人がいる」と気付かせることが大切です。**計画的に勉強している人、進路の目標を見付けている人が既にいることに気付くことが、自分を考え直す契機になると思いました。

若手先生代表

関東地方の公立高校に勤務。13年度、2年度目の2学年担任。



A先生(30代)

若手先生代表

関東地方の公立高校に勤務。13年度、3年度目の2学年担任。



B先生(30代)

※このコーナーは、高校の先生方(今回は関東地方)との検討会の内容を基に構成しています。



中間層の生徒たちは、今のままの学校生活で取り立てて困ることがない生徒。内面ではさまざまな葛藤があるだろうけれど、叱られることも褒められることも少ないだけに、そうした生徒の意識、行動を変えていくのは意外と難しい……。



「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」改訂案

夏休みの取り組み自己評価シート

ダウンロード

項目	取り組んだ時間、内容、心掛けたこと、成果など	自己評価(5段階。5が最高点)
毎日の学習時間	平均 () 時間 部活が忙しい時期は何も勉強しない期間があったが、それ以外は学校からの課題に取り組めた。	4
学校からの課題	本格的に取り組んだのは夏休みの中盤以降だったが、夏休み終了までにはすべて終わらせた。	4
自主学習	学校からの課題以外の勉強はしなかった。	2
部活動	部活動には合宿も含めてすべて参加した。タイムを伸ばせた。	5
進路学習	オープンキャンパスに1大学分参加した。	5
規則正しい生活	部活動がある日は、規則正しい生活を送ることが出来た。	5
友だちと比較して感じたこと、2学期から頑張りたいと思ったこと	自分としては、部活動をやりながら学校の課題をきちんとこなせたことにはかなり満足していたが、クラスの友だちの中には、自主学習として自分の苦手な教科や1学期の復習などをしていて驚いた(しかも野球部)。また、オープンキャンパスに3大学も行っている友だちもいた。毎日の勉強時間が1時間ではとても少なかったのだと分かったので、2学期からは学習時間を増やしたい。	

「もっと響く指導」のために改訂すると……

データを生かす指導の流れ

学習や進路、部活動など夏休みの取り組みや気づきを生徒自身に記述させた上で、自己評価させる。それをグループで見せ合ってクラスメートの現状を知り、今の自分を考える。

- 1 生徒に自己評価シートを配布し、各項目について夏休み中に取り組んだことや心掛けたことを書かせ、それを元にした5段階で自己評価させる。
- 2 グループでシートを見せ合ったり、いったん回収し、クラスの生徒全員で共有したりする機会を設ける(全員分印刷して配布する、ファイル化して回覧するなど)。
- 3 生徒に、共有を経て感じたことを一番下の欄に記入させる。それを元に面談し、2学期の指導につなげる。



5段階評価だけで尋ねていたアンケートを、自分が夏休みに実際に取り組んだことを記述させた上で、自己評価させるように改訂するのはどうでしょうか。そして、**クラスで比較し、多くの生徒が学習、進路、部活動など、何かの分野で頑張っていることに気付かせるのです。「A君は自分より勉強しているのに、自己評価は厳しい点数だ」など学習観、進路観の違いに気付くことは、教師の言葉以上に心を揺さぶられ、自分の価値観や具体的な生活**

パターンを見直すきっかけになるはずですよ。



このように客観的に自分の状況を捉えさせることで、改善意識が芽生えそうですね。この気持ちを今後につなげられるように、面談などで後押ししたいものです。その際、夏休みを後悔の念だけで振り返るのではなく、**行事や部活動などで頑張ってきたことは認め、褒めながら、「部活動に加えて、もう少し勉強でも頑張れるのでは？」と問い掛けて、自分自身の言葉で目標を語らせたい**と思いました。

生徒にとって先輩の体験談はとても心に響くものです。しかし、自分に引き付けて、具体的な行動モデルとするためには、体験談をそのまま与えるだけでは難しい場合もあるようです。



「生きたデータ」2008年9月号を参考に、生徒に先輩事例を紹介したところ……

「もっと響く指導」のポイント

②

② 先輩のこの時期の学習時間と過ごし方のポイント



	2年生 夏休み明けの 学習時間	3年生 夏休み明けの 学習時間	合格大	この時期のポイント
Aさん	1時間	5時間	●●大	2年生のこの時期は、部活動でも中心になるため、勉強時間が取りにくいと思います。ただ、そういった中で、隙間時間であっても継続的に学習する習慣を身に付けることができれば、受験生になってから楽になります。現に私は、部活が終了したあとは、スムーズに受験勉強に専念することができました。
Bさん	2時間	4時間	▲▲大	夏休みが終わって、何となくだるかったのを覚えています。自分で計画を立てて勉強することはできませんでしたが、少なくとも学校の授業には集中しようと思えました。だから日々の勉強は、学校の課題と、予習、復習のみでした。でも、その習慣が3年生になったときに生きたと思います。
Cさん	30分	2時間	浪人	夏休み明けは、部活動や学校行事で、ほとんど勉強していませんでした。学校の課題もゆったりやらなかったり…。振り返ると、この時期に学習習慣を身に付けておくことが大切だったと思います。何を勉強すればよいかわからない人は、先生に相談しましょう。思っている以上に、2年生で大きな差をつけられました。

私の狙い

「現状のままではだめだ」という危機感を持たせ、この時期に取り組みポイントを伝えたかった

取り組み内容

先輩がこの時期に取り組みしていた学習時間と学習内容をまとめて提示した

感じた課題

危機感を抱かせることには成功したようだが、漫然としたアドバイスになってしまい、生徒にとって、自分の現在の境遇と照らし合わせた共感が難しかった

生徒が共感できる先輩事例を基に、
今後の学習の指針を具体的に考えさせる



中だるみした生徒の刺激になればと、先輩の体験談を読ませて、2年生のうちにおこななければいけないことを伝えようとしたこともあります。危機感を抱かせるという意味では効果はありましたが、**具体的なアドバイスがなかったため、一時的な危機感を抱くだけで終わった生徒もいた**ように思います。



生徒にとって先輩の体験は、教師の言葉以上に説得力を発揮することがありますから、これを活用するのは良いアイデアだと私も思います。でも、生徒の共感を得て、それを具体的な行動につなげるのは簡単ではないですね。



この時期、刺激として危機感を抱かせるだけでは、生徒の変化には

不十分な気がします。**生徒の中には、危機感、あるいはやる気があるのになかなかうまく行動に結び付かない現状に、苛立っている生徒もいます。**そうした生徒には、具体的にどのように学習を進めていけばよいのか、モデルとして先輩の実例を示してあげたいです。



ただやみくもに危機感をあおるのではなく、この時期から頑張れば志望実現が十分可能だという安心感と、そのためにはこれをすればよいという具体的な指針を与えたいですね。夏休みの取り組み自己評価シート(P.35)で自分に足りないものを把握させてから、**先輩の実例をその後の学習の道筋を示す解決策として活用するとよい**でしょう。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ダウンロードできます!

生徒指導・進路指導ツール集

ベネッセ教育総合研究所

<http://berd.benesse.jp>

生きたデータ

検索

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも同じウェブサイトでご覧いただけます。併せてご利用ください!

HOME→教育情報誌(高校向け)→

生徒指導・進路指導ツール集をご覧ください

2006年9月号「2年生の夏休み明けの意識付け」

2010年9月号「2年生夏休み後の切り替えと秋からの進路意識の醸成」

2011年9月号「2年生2学期、「中間層」に前を向かせるための意識付け」など



「もっと響く指導」のポイントと
「生きたデータ」改訂案

先輩の体験から、今取り組むべきことを言語化する



先輩名	部活動	2年生の2学期に最も力を入れていたことと、勉強への取り組み状況、後輩へのアドバイス	合格大
Aさん	陸上部	部活がとにかく中心でした。試合へ向けて練習ばかり。そのため、平日は宿題だけをこなせばいいと割り切るようにしました。その代わり、少し時間がある週末には、1週間の学習内容を見直し、分からない点は週明けに先生に質問していききました。また、授業の合間の休み時間も、出来るだけ予習などにあてるようにしました。この時期、後悔のないように部活動に組み込みながら、引退後に本格的に取り組めるように、分からないところはつぶしておけるとよいと思います。	●●大
Bさん	テニス部	部活や行事はほどほどにしていますが、勉強にはあまり身が入りませんでした。それは、まだ志望大がはっきり決まっておらず、やる気がわかかなかったからです。今考えると、だからこそ、勉強をしっかりしておくことが大切でした。私はなんとか合格しましたが、進路が決まった際に実現可能なように、苦手教科をつくらずに基礎固めをしておけば、3年生になってもう少し楽だったと思います。	●●大
先輩の体験談を読んで、取り組んでみたいと思ったこと		部活動ばかりで、勉強が出来ていないことに悩んでいたが、現実的には勉強の時間を十分確保することは難しく、どうすればよいのかが分からなかった。先輩の例を見て、授業の合間なども利用して、基礎固めをしようと思った。	

「もっと響く指導」のために
改訂すると...

データを
生かす
指導の流れ

今の自分の不足や課題に気が付いた生徒が、先輩の例を参考に、まず自分が取り組むべき優先事項を具体的に把握できるように支援する。

1 生徒の参考になりそうな先輩の事例を受験体験記などから抽出する。その際、生徒が共感しやすいように、さまざまな学力層、属性の先輩を選ぶ。

2 P.35のデータを活用し、生徒に「ここが足りない」「もっと頑張りたい」と意識付けが出来た段階で、先輩のデータを示す。

3 部活動などに従来通り取り組みながら出来る工夫を先輩事例から読み取らせ、具体的に取り組む内容を生徒にまとめさせる。



本校は毎年、浪人が決まった生徒も含めて全員に受験体験記を書かせています。学校の財産として積み上がっているのですから、生徒が今の自分と似た境遇の事例から学べるように、部活動や成績など、さまざまな属性別に提供したいです。



この時期、生徒に与える情報としては、先輩の学習時間よりもむしろ、学習内容や取り組みの工夫を示すことを優先したいですね。数字だけが独り歩きし、「これだけの学習時間でよい」「こんな

に勉強しなければ、合格できない」と決めつけてしまうことは避けさせたいですから。特に**中間層の生徒には、この段階では、今と入試がつながっていることの意識付けと、まず取り組むべき学習テーマの把握をさせればよいでしょう。**



生徒同士での刺激、自らの気づきが生徒の中でどう醸成されているか、普段の声掛けを通して確かめ、必要に応じて更に具体的に学習指針を示していきたいと思っています。

未来をつくる大学の研究室

最先端の研究を大学の先生が誌上講義！

45

文化の比較によって得た知見により 伝統的な民族文化を現代に生かす

金沢大大学院 人間社会環境研究科 かがみ はる や 鏡味治也研究室

地球に人類が誕生した時から、文化は始まった。以来、数え切れないほど多くの民族が、世界各地で独自の生活を営み、文化を築いてきた。ところが近年、情報通信技術の進歩などにより、生活の画一化が急速に進み、民族や地域が伝統的に受け継いできた知識と技術は顧みられなくなる傾向にある。我々は文化の多様性をどのように維持していけばよいのだろうか。金沢大大学院人間社会環境研究科の鏡味治也教授は、伝統文化を保存するだけでなく、活用の仕方を工夫することが鍵であると語る。

フローチャートで分かる鏡味治也研究室

大学院生の 主な出身分野

文化人類学

日本語学

歴史学

デザイン学

など

◎人類の文化について広く研究するため、特定の分野に偏らず、文系の多様な学部から学生が集まっている。また、世界中の民族を研究対象とするため、海外からの留学生も多く、2013年度は中国出身者が6人、インドネシア出身者が2人、ベトナム出身者が2人、研究室に在籍している。

研究にかかわる 学問分野と研究内容

考古学

歴史学

文化人類学

地理学

言語学

◎文化人類学は、文化を研究する学問との接点が多い。考古学における発掘調査の知識と技能、地理学における自然環境に対する知見、歴史学における文化的背景への考察力、言語学による発音の特徴分析などを、研究に取り入れている。

研究成果と 社会のかかわり

人類理解

現代生活への
民族文化の応用

など

◎民族や地域による文化や価値観の相違点、共通点を明らかにする文化人類学の知見は、人類の普遍性の追究につながり、人類理解に役立つ。また、少数民族に伝わる薬草を研究し、医薬品に応用するなど、伝統的な民族文化を現代の生活に役立てようとする動きもある。

ありふれた日常を注意深く観察し、探究する力が必要

文化人類学が求める学生像

あらゆる人間に対する興味

人間の日常生活への探究心

自分と異なる価値観への関心

文化人類学を学ぶためには、人間に興味を持っていることが必須の素養となります。文化を生み出すのは、人間だからです。人間に対する興味なくして、文化人類学の研究はあり得ません。

また、文化は、特別な知識や技術ばかりではなく、習慣や風俗など生活のあらゆる面に表れます。例えば、あくびをする時に口を手で隠すかどうか、くしゃみをする時にどのような声を出すかというように、普段の何げない立ち居振る舞いにも反映されるのです。研究では、人間の日常をしっかりと観察することが必要ですから、生活の特別な面だけでなく、ありふれた面にも興味を持ってなければなりません。

そうした研究を、世界中の民族を対象に行います。自分とは異なる価値観に対する強い好奇心が求められ、それがあからこそ、調査のために長期間現地に滞在したり、現地の人々と積極的にコミュニケーションを図ったりしようとする意欲も生まれてくるのです。

高校生へのメッセージ

人間は、不思議な生き物です。同じ人でも、美しい時もあれば醜い時もあり、恐ろしい時もあれば哀れな時もあるというように、さまざまな面を持っています。小説、特に古典的な名作には、人間に対する洞察力に満ちた作品がたくさんあります。高校生のうちになるべく多く読み、人間というものに対するイメージを豊かにしておいてください。

人間は、不思議な生き物です。同じ人でも、美しい時もあれば醜い時もあり、恐ろしい時もあれば哀れな時もあるというように、さまざまな



鏡味治也 教授

かがみ・はるや 金沢大学大学院人間社会科学研究科人間科学系教授。金沢大学博士課程教育リーディングプログラム「文化資源マネージャリー養成プログラム」プログラムのコーディネーター。東京大学大学院社会学研究科博士課程中途退学後、野外国族博物館リトルワールド研究員、金沢大学文学部助教授を経て現職。主な著書に『バリ島の小さな村で』（洋泉社）、『キーコンセプト 文化』（世界思想社）など。

研究概要

普遍的な価値観を 浮かび上がらせ 人類について考察

私が大学に進学した1970年代前半は、戦後日本の転換期でした。経済成長によって生活が豊かになり、便利なものや新しいものばかりでなく、日本の伝統的な工芸品や建築物などが注目されるようになりました。古寺探訪が流行し、私も京都や奈良の古い寺を見て回ったものです。また、海外旅行が身近なものとなり、外国の遺跡などを紹介する書籍が相次いで刊行されました。日本と海外の文化について論じた一般書、石田英一郎先生や中根千枝先生の学術書などを熱心に読む中で、「世界中の文化についてもっと知りたい」という気持ちが高まり、私は文化人類学を研究するようになったのです。

文化人類学では、世界中の人々の言語や習慣、政治、経済、信仰など、生活にかかわるあらゆる事柄を観察し、その特徴を比較します。そして、民族や地域、時代などによって、人間の文化にどのような相違点、共通点が見られるのかを研究するのです。

私はインドネシアの文化、特にバリ島に住む約300万人の民族、バリ人の文化について研究しています。インドネシアはいくつもの民族から成り、どの民族も独自の文化を営んでいます。バリ人に注目した大きな理由は、その宗教文化にあります。インドネシアの大半の民族は、13〜14世紀に掛けて伝来したイスラム教の影響を強く受け、それ以前に伝来していたヒンドゥー教の文化を失ってしまいました。しかし、バリ人には今なおヒンドゥー教徒が多く、土着の宗教と習合した独特の祭祀や儀礼を行っています。それを研究することは、インドネシアの他の民族がかつてどのようにヒンドゥー教を信仰し、その文化を築いていたのかを探るための有力な手掛かりとなると考えたのです。

文化人類学では人々の生活を間近で観察するために、現地調査を重視します。私も、大学院生だった約30年前から、毎年のようにバリ島の村々に足を運び、バリ人がどのように暮らしているかを調べています。村に住み込み、バリ人と間近に接していると、日本人の感覚と大きく



写真 遺体を火葬場へ運ぶ行列。バリ人の宗教観では、遺体も汚れたものと見なされる。火葬は、汚れを祓うための儀式の1つである

異なるところがしばしば見られます。最も印象的だったのは、遺骨に対する価値観です。日本人は、納骨するまでの期間、遺骨を自宅に安置することがありますが、バリ人は遺骨を宗教的に汚れたものと考えているため、決して自宅に持ち込みません。ある時、バリ人と親交のあった日本人が亡くなり、「バリ島の海に散骨してほしい」という願いを果たそうと、遺族が日本から村を訪れたことがありました。そして、何げなく遺骨を持ったまま村人の家に入ろうとして、大騒ぎになったのです。その様子を目の当たりにして、私はバリ人の遺骨への禁忌がいかに大きいかを、身をもって理解できました。

このように、異なる価値観がぶつかり合う瞬間に立ち会えることも、現地調査を行うだいご味の1つです。抱く感覚に違いはあるにせよ、遺骨を特別視しているのは、日本人もバリ人も同じです。そればかりか、実は、そうした意識は世界中の多くの民族に、古くから共通して見られます。つまり、昔から人類が、骨という物質に執着しているわけです。このことから、信仰する宗教の枠を超えた、遺骨に対する人類の普遍的な心理がうかがえます。文化人類学では比較によって価値観の違いを把握するだけでなく、共通点をも考察することで、人類に対する理解を深めていくのです。

みられなくなり、やがて廃れてしまおうでしょう。ただ、伝統的な知識や技術には、未知の可能性が秘められています。前近代的な方法や事物の中にも、工夫次第で現代の生活に役立つものがあるのです。例えば、アフリカや南米などの少数民族に伝わる薬草の成分を分析し、医薬品に応用しようという試みは、盛んに行われるようになりました。また、今は無理でも、将来、科学が更なる進歩を遂げれば役立てられるようになる民族文化もあるはずですよ。いつか必要になった時のために、各地の文化一つひとつを記録し、保存しておくことが重要なのです。

研究の展望
伝統的な民族文化を現代に応用する

近年、情報通信技術や物資の流通システムの発達などに伴い、世界中で生活の画一化が進んでいます。例えば、Tシャツにジーパン姿の人々は、どこを旅行しても珍しくなくなりました。現代的な生活に適さないと見なされた文化は顧

文化人類学の知見は、失われつつある文化を保存し活用する上で、大きな武器となります。金沢大学大学院では、その第一歩として、博士課程教育リーディングプログラム「文化資源マネージャー養成プログラム」を始めました。多様な民族的伝統を保護する知識と技術はもちろん、それを広く現代に生かすための発想力をも備えた人材を、今後も育成していきたいと思っています。

用語解説

- 1 **インドネシア**
東南アジアに位置し、スンダ列島、モルッカ諸島、ニューギニア島西半部などから成る共和国。1945年にオランダから独立した。首都はジャカルタ。
- 2 **バリ島**
インドネシア南部に位置する島。住民の大部分を占める民族はバリ人だが、ジャワ人やインド人など他民族も見られる。
- 3 **イスラム教**
7世紀初めに、アラビアのメッカでムハンマド（マホメット）が創唱した宗教。ユダヤ教やキリスト教などと同じく一神教である。聖典はコーラン。
- 4 **ヒンドゥー教**
バラモン教がインドの民間信仰と習合して形成された、インドの民族宗教。
- 5 **新粉**
精白したうるち米を粉碎し、乾燥させたもの。粒子の細かいものを上新粉、粗いものを並新粉と呼ぶ。

伝統民芸を現代社会に いかにして蘇らせるか



馬 清清さん

ま・たおたお 金沢大大学院人間社会環境研究科博士前期課程1年。陝西省西安市中鉄一局西安子弟学校卒業。

Q なぜこの分野に進んだのですか

A 私の出身地、中国陝西省西安市は、古来、政治や経済、

文化の中心地として栄えてきました。秦や唐などの王朝が都を置きましたから、始皇帝や楊貴妃といった歴史上著名な人物にゆかりが深い場所もたくさんあり、観光客が多く訪れます。

一方、西安市の農村部に発達した手工芸や芸能などの民衆の文化には一般の関心が集まらず、衰退する傾

向にあります。政府の保護政策も十分とは言えません。故郷の伝統を後世に伝えるために自分に出来ることを学びたいと、私は文化人類学の研究を志したのでです。

Q 鏡味先生の研究室での研究内容を教えてください

A 民芸品、特に新粉細工について研究しています。これは、

花や動物などをかたどり、彩色した手芸品で、大きいものでは高さが60cmを超えます。以前は中国の農村部で婚礼や誕生、祭祀などのお祝いとして盛んに作られていましたが、現在は後継者が少なくなり、技術が途絶えてしまうのではないかと危惧されています。

長期休暇で帰省した時には、調査のために農村部を訪れ、新粉細工の職人にインタビューを行い、技術を記録しています。また、現地の高齢者に話を聞いたり、郷土資料館に保存されている新粉細工を調べたりすることもあります。どのような新粉細工を作るかは、行事ごとに慣習的な規定があったようなのですが、それを伝える資料が乏しいためです。更に、新粉細工を再興するため

に、現代に合うようにアレンジすることも計画しています。どう手を加えるべきかを考えるヒントとして、都市部の若者を対象に、新粉細工への興味の有無などについてアンケート調査をしたいと考えています。

時代はどんどん変わります。伝統を守ることは大切ですが、それに固執するばかりでは時代との距離は増す一方でしょう。伝統の良さや現代に通じる部分を見いだし、人々の暮らしの中に生きる民芸品として、再び新粉細工を蘇らせたいと思っています。

Q 日本の高校生へのメッセージをお願いします

A 私は日本に留学して、漆器や陶器などの伝統工芸品を初

めて見た時、その素晴らしさに言葉の失いました。技術は中国から伝わったかもしれませんが、中国のものとは全く異なる美しさを感じたのです。日本語の「侘」や「寂」という概念に近いかもしれません。

それ以来、私は中国の伝統工芸品を見る目が変わりました。今までそれほどよいとも思わなかった作品に新たな魅力を感じるようになったのです。日本という異文化に触れて、自分の視野が広がったことを実感しています。

自分の価値観に固執するよりも、別の価値観に触れた方が成長すると思います。皆さんも自国の枠を超え、海外の文化と積極的に向き合ってみてください。

私の高校時代

友だちと座右の書が支えてくれた受験勉強

●1日8時間。私は高校3年間、自宅で毎日それだけ机に向かっていました。つらいと思ったこともありますが、続けられたのは、2つの支えがあったからです。1つは、学校の友だち。ほぼ全員が私と同じくらい勉強していましたから、私だけ音を上げるわけにはいかなかったのです。学校で互いに励まし合っていました。もう1つは、インドの詩人、R・タゴールの詩集です。問題が解けなくてイライラしたり、自分の力不足に悲しくなったりした時、いつも手に取りました。自然や人間に対する愛情をうたい上げた雄大な叙情詩は、大きな元気をくれました。

志望大の合格通知を見た時は、「やれば出来るんだ!」と、大きな自信を得られました。日本に留学してから困難にぶつかることはありますが、くじけそうにはなりません。高校時代に頑張った目標を達成した経験が、今の私を支えているのです。

創造的な学びにチャレンジする着想を得た

6月号の特集で紹介されていた「高校生未来プロジェクト」に参加していた生徒の生の声は、大変参考になった。高校を卒業した大生も座談会に加わったことで、議論に深みが出ていたと思う。プライベートなどの問題もあつて難しいかもしれないが、この後の彼らの活躍を追跡する取材を続けることも検討してもらいたい。私は、この夏、勤務校で小論文講座を担当することとなった。今回の特集を読み、型どおりの講義や添削指導だけではなく、ワークシヨップ形式などを用いた創造的な学びにもチャレンジしてみようという着想を得られた。

〔兵庫県立明石南高校・井守 真〕

言語活動の機会を与える学校を構築したい

6月号「指導変革の軌跡」での石川県立金沢錦丘高校の記事を読み、全校体制で言語活動をとり入れ、論理的・批判的思考力を育成する取り組みに感銘を受けた。本誌の「一人ひとりがよく生きるために」という目標の原点に学びの意欲があると感じる。特集で紹介されていた「高校生未来プロジェクト」から見ることが、「学び、社会、自分」の語り合いで変容する高校生の姿ならば、校内でも積極的に取り入れるべき実践だと思った。今以上に試行錯誤しながら、オックスフォード大の荻合剛彦教授が話されていたように、語り合うことに飢えている生徒に充実した言語活動の機会を与えることの出来る学校、教育課程、教科指導、生徒指導、進路指導を構築

Reader's VIEW

Volume 3

読者のページ

読者の先生方からのご意見を紹介します

模索していた指導に確証を得られた

6月号「新課程 教科指導最前線」の数字についての記事は、非常に参考になった。単元を取っても、いろいろな指導方法があるのだと感じた。「データの分析」については、本校も扱い方を模索しながら、センター試験で出題される程度であると予想していた。福井県立武生高校でも、センター試験程度という見解が出ていたので、本校もこのままでよいと認識することが出来た。教科会に報告したいと思つたし、このように「VIEW21」の情報や他校の教科指導の取り組みについて教科会で共有できるのは良いことだと感じた。

〔東京都・私立東京農業大学第一高校中等部
・小堀 健一〕

他教科の指導最前線が大きな刺激に

6月号「新課程 教科指導最前線」の記事から、担当教科の英語以外の生々しい指導最前線の現状と挑戦、試行錯誤などが垣間見えた。私にとつてはとても刺激になり、良い企画だと思った。

〔兵庫県立播磨農業高校・丸山 正人〕

教師川柳

変わる世に
変わらぬものを教えたい

長野県・一徹

子どもは未来

ベネッセ教育総合研究所は、
子どもたちの成長に寄り添う研究と
社会への発信を通して、
一人ひとりが学びに向かい、
今と未来を“よく生きる”ことに
貢献することを目指しています。

ベネッセ教育総合研究所

編集後記

◎「主体性の育成」をテーマに特集がスタートして、ちょうど1年となります。そこで今号では、これからの社会で求められる主体性とは具体的にどのようなものなのかを改めて考えました。対談記事の中で北川先生がおっしゃっていたように、主体性とは、他者の存在を前提としているものであり、社会貢献意識などは、まさに主体性の強い表れなのだと思います。これまで弊誌が追求してきた主体性育成の方向性が再確認できた特集となりました。今後も、主体性をより具体化させながら、その育成のために必要な指導のあり方について考えていきたいと思います。(柏木)

VIEW21 8月号 Vol.3

2013年8月23日発行

発行人 岡田晴奈
編集人 谷山和成
発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所
印刷製本 凸版印刷(株)
編集協力 (有)ペンタコ
執筆協力 中丸満、横堀夏代
撮影協力 荒川潤、筒井岳彦、ヤマグチイッキ
イラスト協力 カモ
情報編集室
〒206-8686 東京都多摩市落合1-34
電話 042-311-3390

©Benesse Corporation 2013

VIEW21

2013
October
10
月
Volume 4

次号は
10月10日発行(予定)

〔VIEW21〕高校版は
年6回の発行です

厳しさと信頼

表紙の学校

北海道札幌東高校 高橋秀尚^{ひで なお}先生

「授業進度はすごく速い。でも分かりやすい」と生徒が口をそろえる高橋秀尚先生の数学の授業。「『ここは大事だぞ』とはっきり言ってくれるし、教科書の解答例とは異なる解法を複数挙げて、最善で最速の方法を選ぶために必要な考え方を教えてくれる」から授業に付いていけると言う。

週末課題の添削も提出日厳守が鉄則だが、生徒に好評だ。120人分の解答を一つひとつ読み、授業を理解できているかを確認し、コメントを書く。間違えた生徒の多い問題は、次の授業で「何を聞いていたんだ？」と厳しい言葉を投げ掛け、再度説明する。「週末課題は自分の通信簿だと思っています。誤答が多いのは、自分の教え方が悪かったから。生徒には発破を掛けるために叱咤^{しつた}しつつも、内心、ごめんと思っています」と話す。

生徒に厳しくする以上、自分にも厳しさを課す。求められるレベルを把握し、類題をすぐに生徒に紹介できるよう、毎年欠かさず大学入試問題を解くことはもちろん、指導が評判の先生の授業を見学するために道外へも足を運ぶ。教育委員会の交流人事では、秋田県の高校で2年間教壇に立ち、担任と進路指導部副主任を務めた。「目の前の生徒に力を付け、希望進路がかなうよう、立派な社会人となるように導くのが我々の仕事。自分が嫌われたとしても、それが社会で生きればと思うのです」

「先生は厳しいけれど、生徒が悪いことをした時にしか怒らない。週末課題には『よくやった』と書いてくれたり、自分が分かっていないところには解き方を書いたりしてくれる。僕たちのためを思ってくれているのだと感じます」。愛のある厳しさに生徒は引きつけられる。

VIEW21

2013 August ● Vol.3

ビュー21 8月号 / 2013年8月23日発行 / 通巻第341号

発行人 岡田晴奈 編集人 谷山和成

発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所

©Benesse Corporation 2013

お客様サービスセンター

【フリーダイヤル】

0120-350455

受付時間(祝日、年末・年始を除く)

月～金 8:00～19:00 / 土 8:00～17:00

株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社

〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17